

2026年1月19日 SPF豚セミナー

認定農場の生産成績年次報告 (2024 (令和6) 年度)



日本SPF豚協会

SPF豚認定農場の構成と推移



認定農場の内訳（2024年度末）

GGP・GP 農場	CM農場			
	CM農場 合計	一 貫	繁殖専門Ⅱ	肥育専門Ⅱ
17	115	91	11	13

全国（戸）

子取り用雌豚

飼養戸数の推移

SPF（戸）

15,000

10,000

5,000

0

750

625

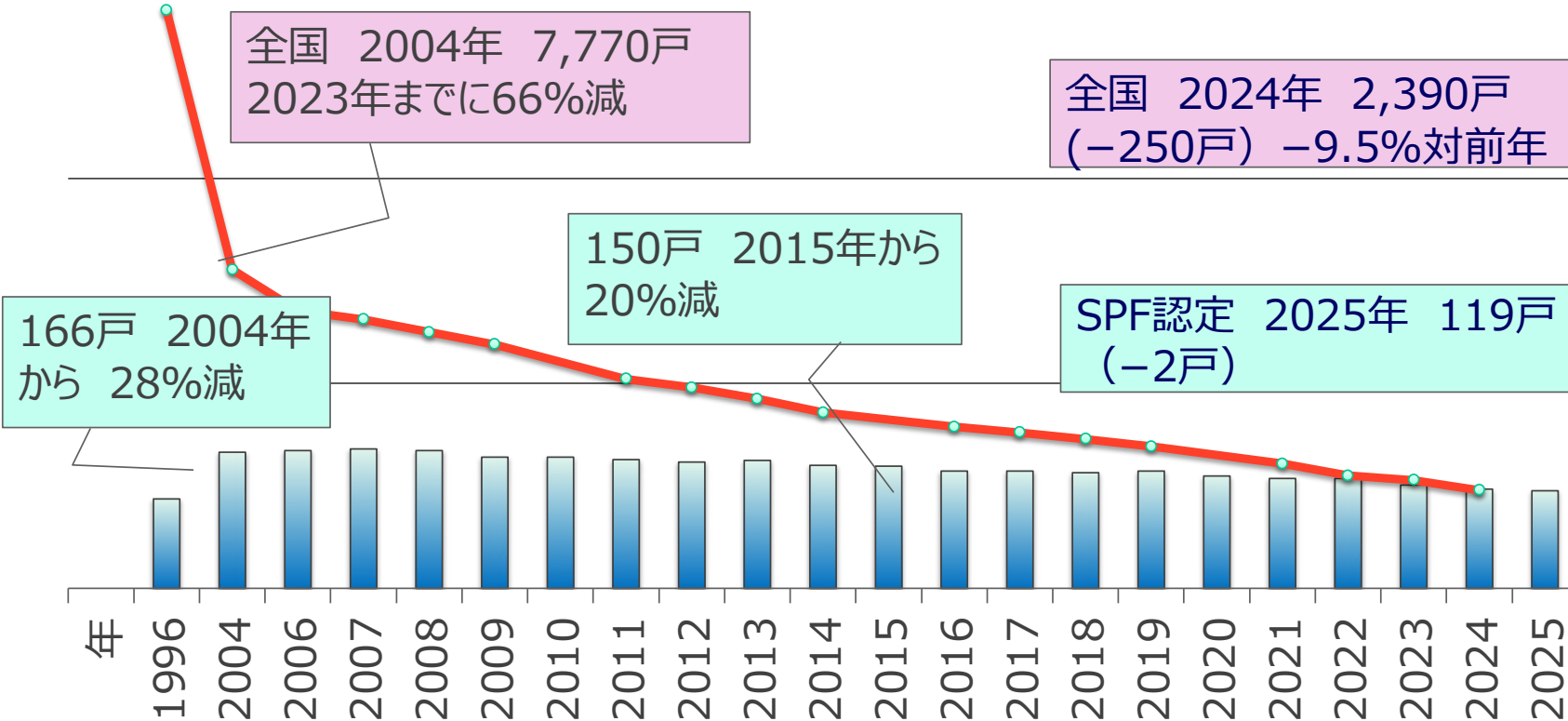
500

375

250

125

0



■ S P F 豚認定戸数 ● 全国の戸数(子取り用)

折れ線グラフと棒グラフが重なるとシェア5%（'24年は5%）



全国（頭）

1,200,000

1,000,000

800,000

600,000

400,000

200,000

0

子取り用雌豚 母豚頭数の推移

SPF（頭）

120,000

100,000

80,000

60,000

20,000

0

全国 758,300頭
2024年2月時点

SPF認定 72,307頭
(-364頭) -0.5%

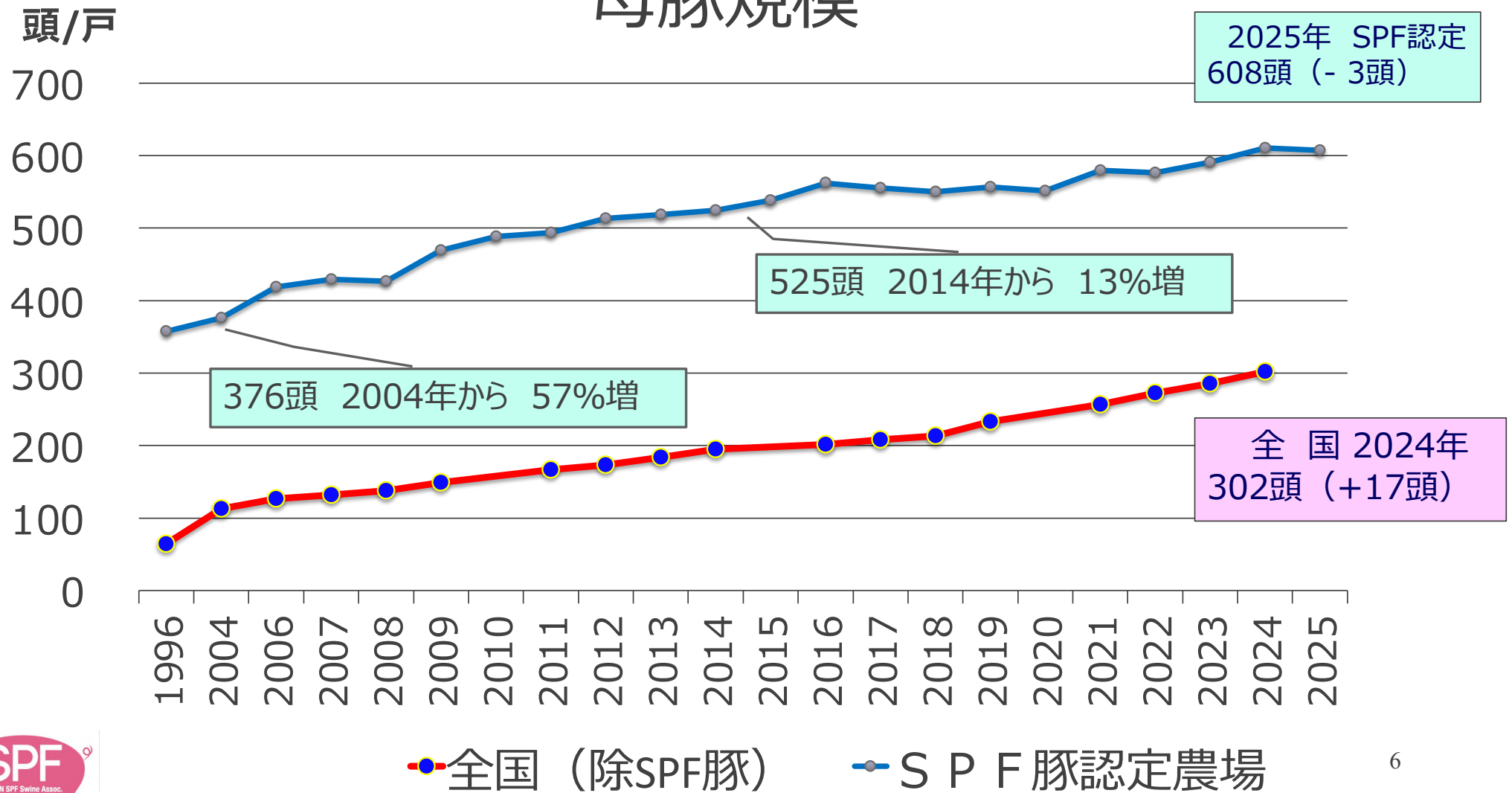
1996 2004 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021 2022 2023 2024 2025

■ S P F 豚認定母豚数 ● 全国の母豚数

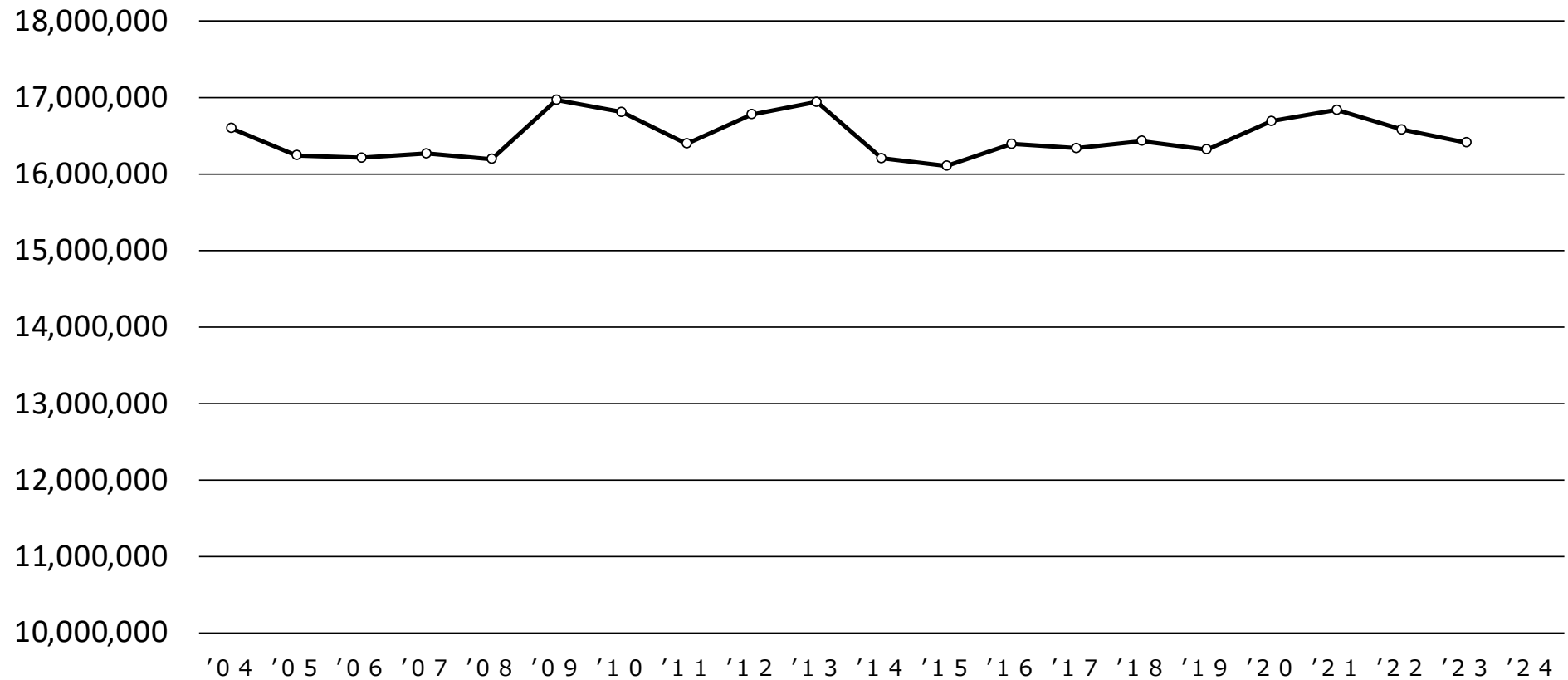
折れ線グラフと棒グラフが重なるとシェア10%



母豚規模



全国のと畜頭数の推移

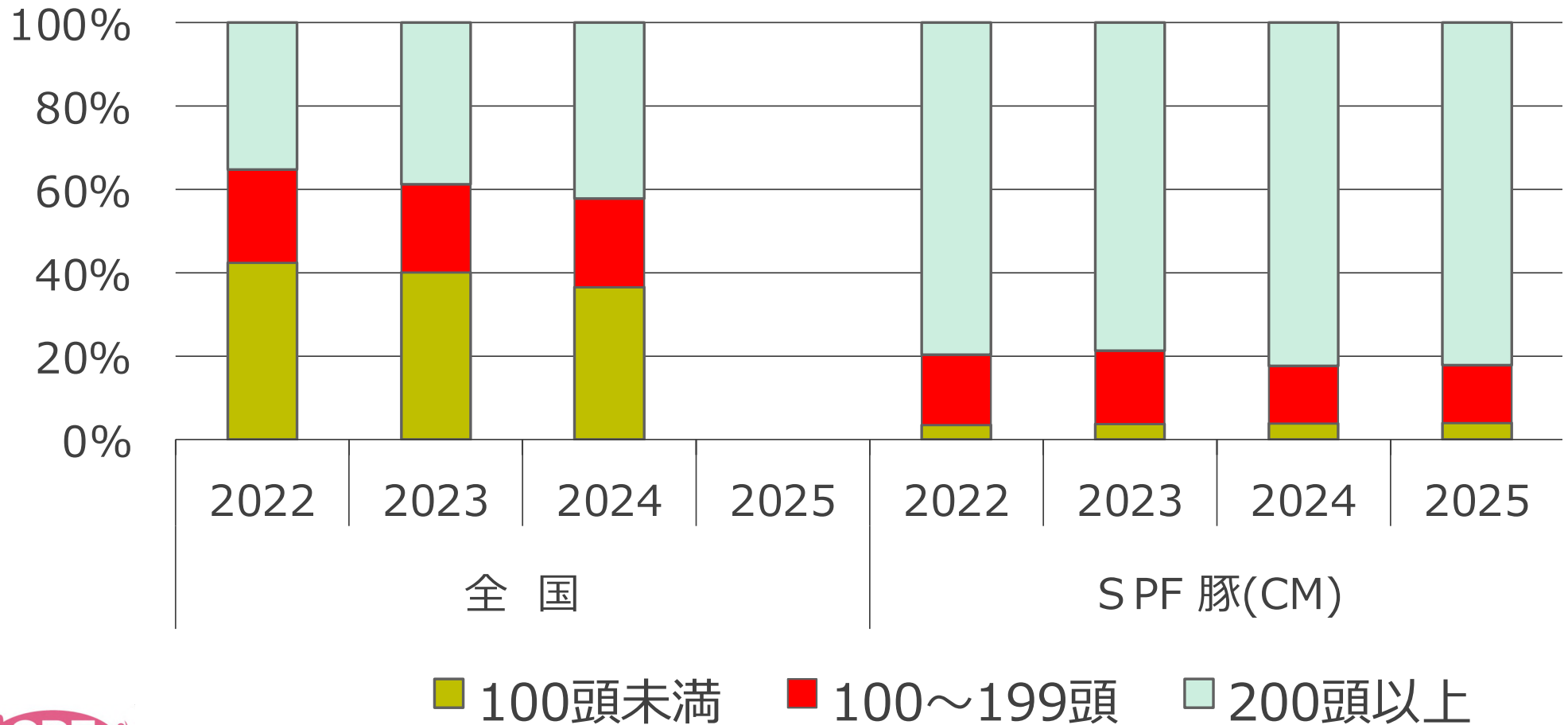


—○—全国豚と畜頭数

畜産物流通統計より

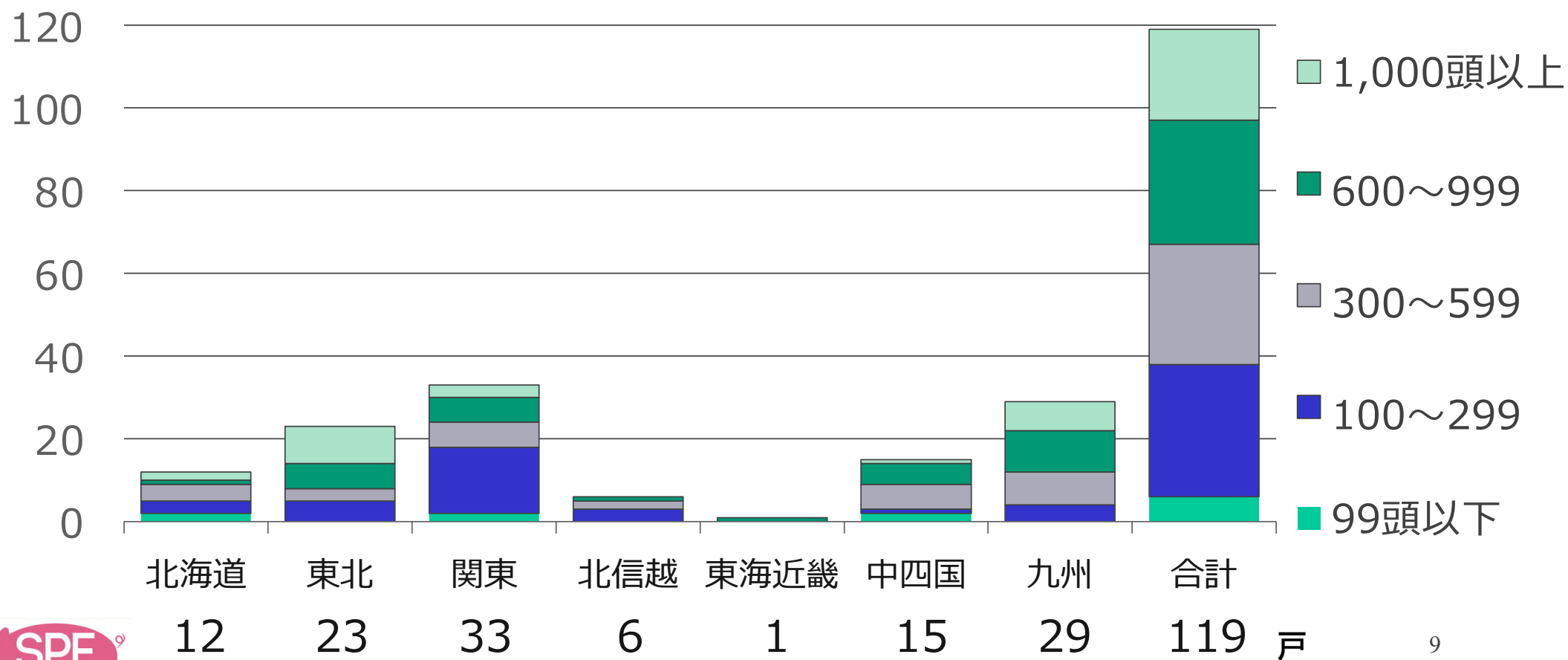


子取り用雌豚飼養規模別戸数の割合推移



SPF認定農場の地方別及び母豚規模別戸数

(2025年3月)



SPF豚農場認定要件 CM農場

- 防疫設備
- 防疫管理
- 生産成績
- ヘルスチェック



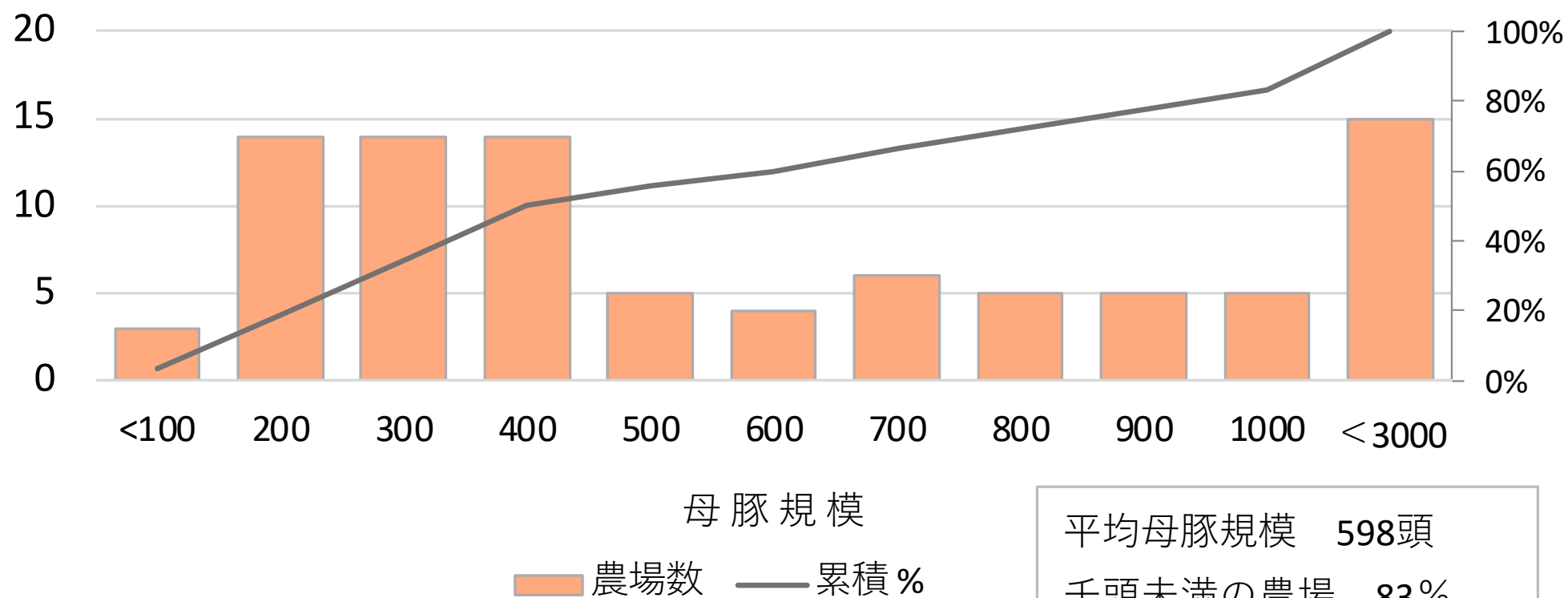
これらが毎年基準を満たしていること

I . 一貫生産農場

対象90農場 （平均母豚数598頭）



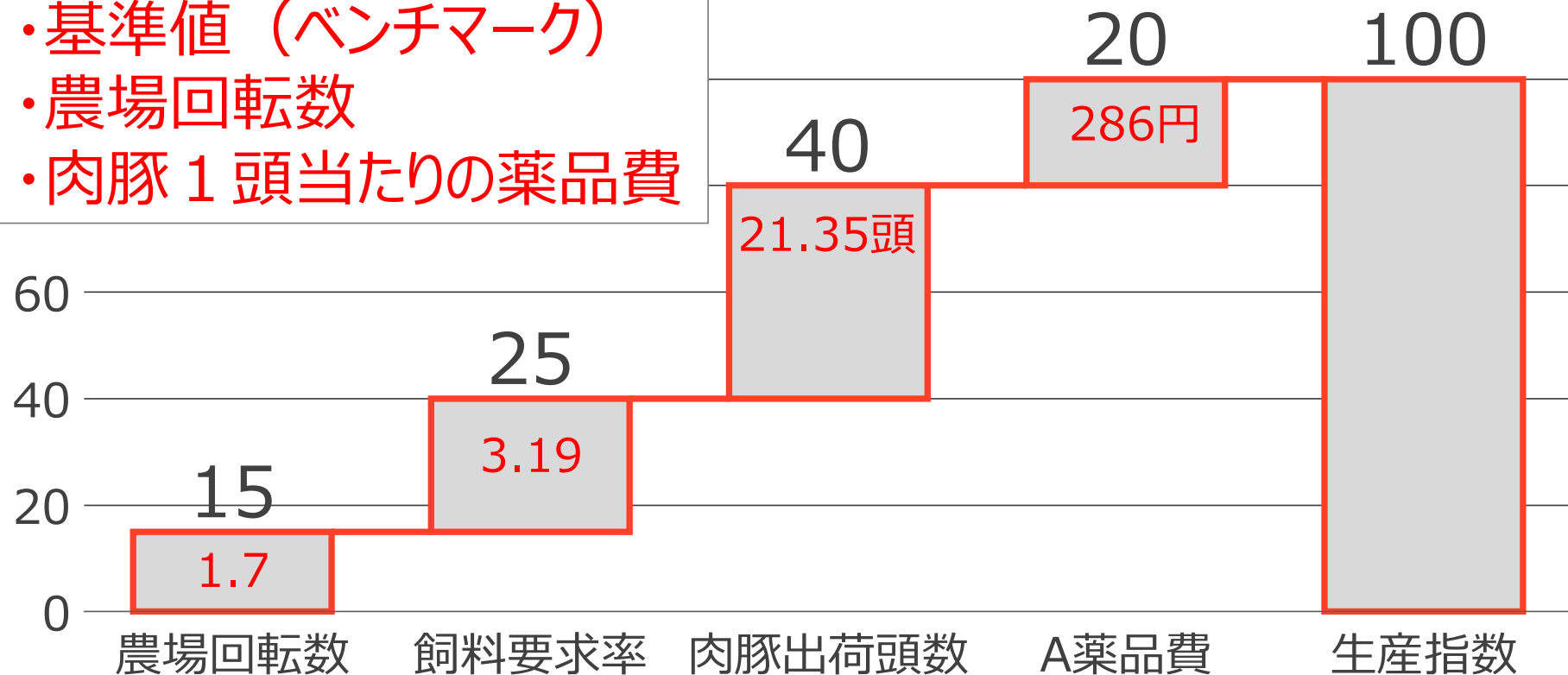
CM一貫農場数 母豚規模別 (n=90)



一貫生産農場の生産成績指数の内訳

生産成績評価の特徴

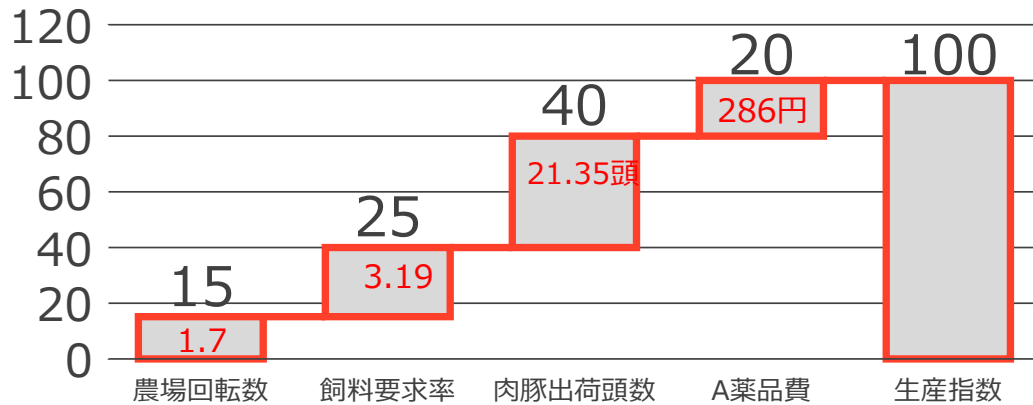
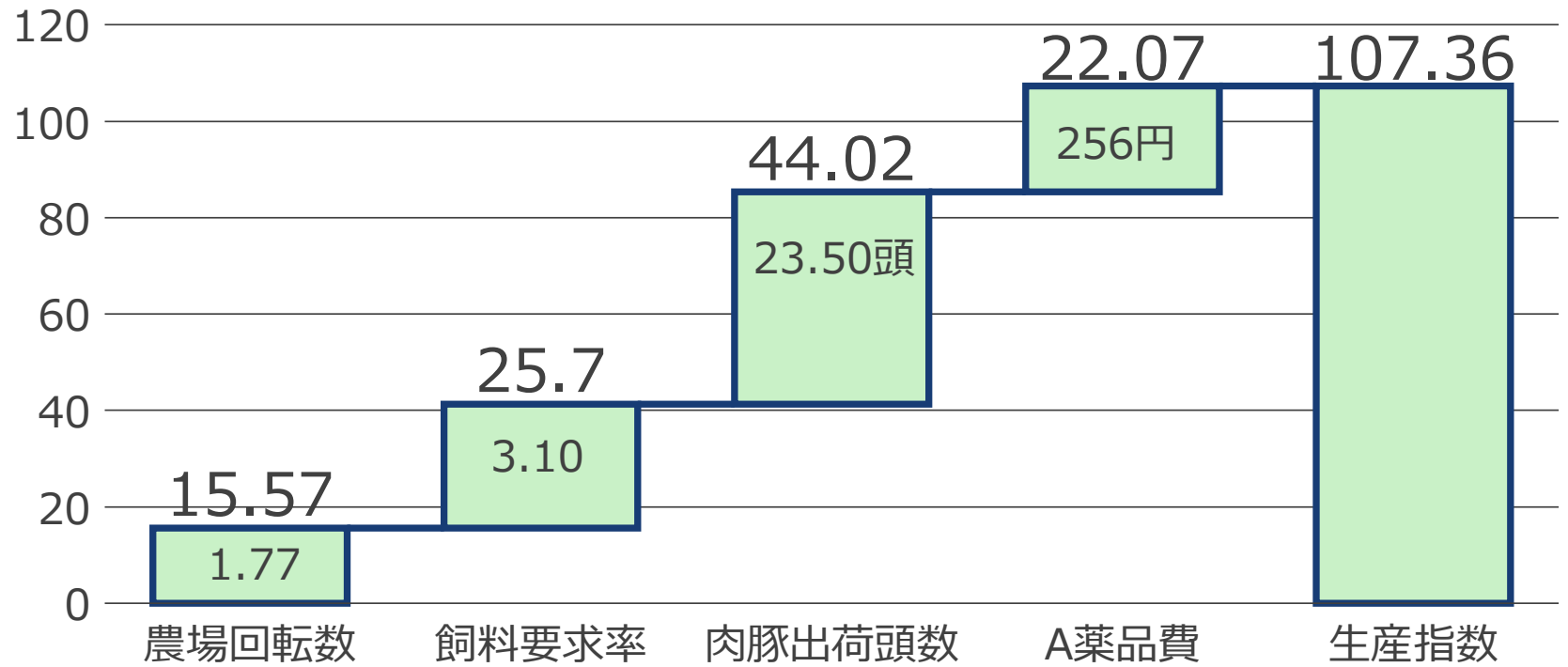
- ・基準値（ベンチマーク）
- ・農場回転数
- ・肉豚 1 頭当たりの薬品費



*（赤字）基準値



一貫生産



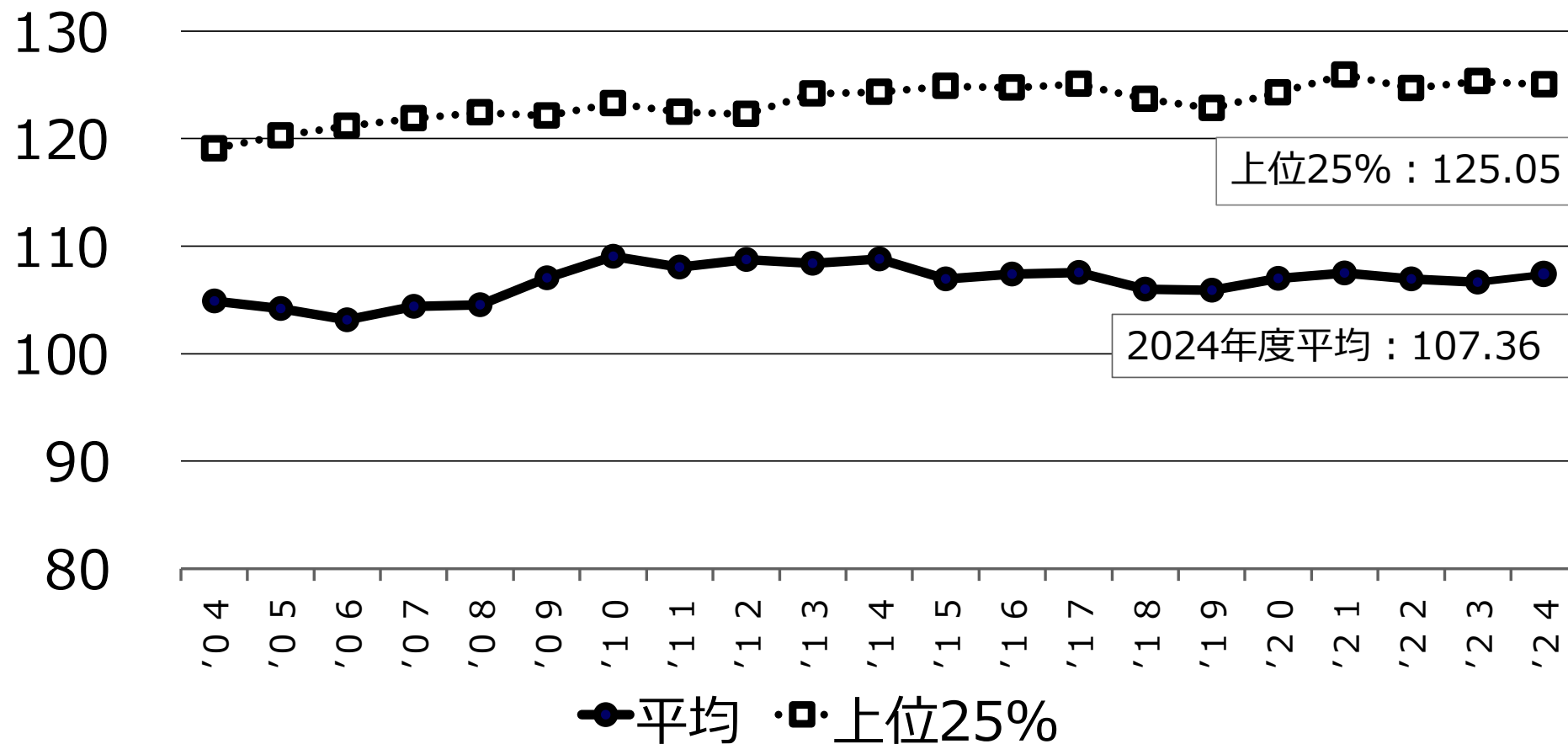
2024年度 平均値



基準値：2002年度の平均値

生産指数 (基準指数100)

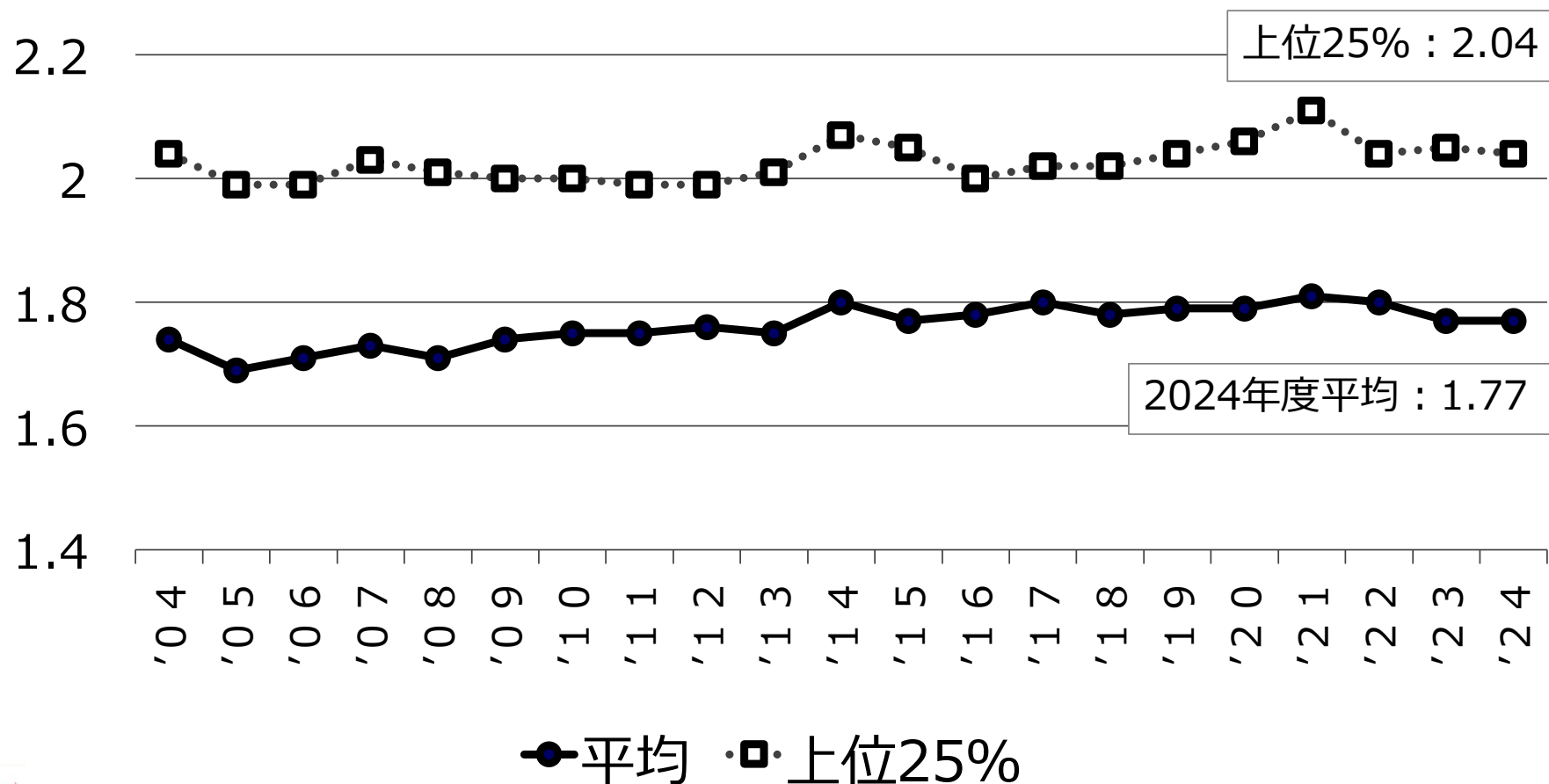
(一貫)



生産指数 : 昨年比 0.7 ポイントアップ

(一貫)

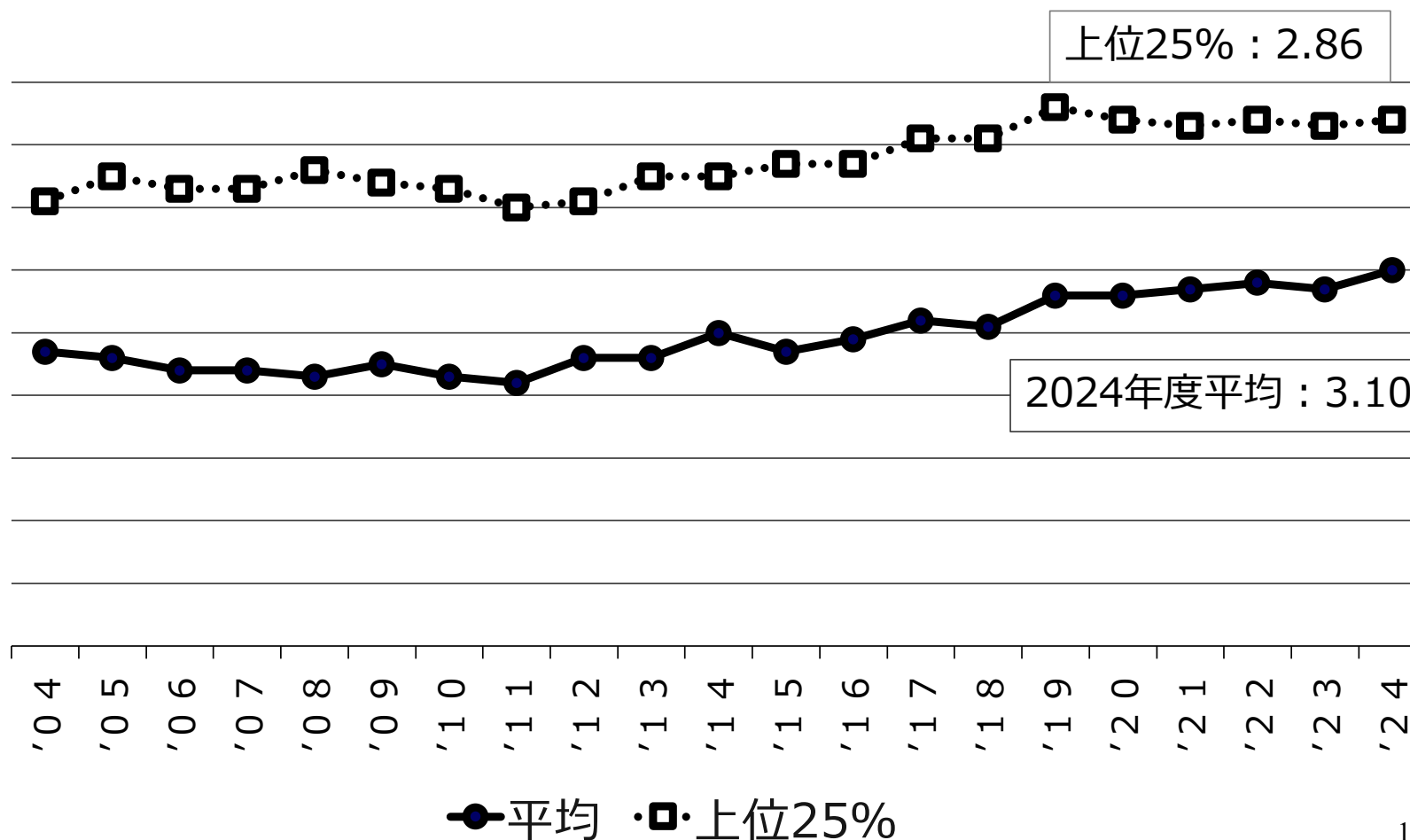
農場回転数 (基準値1.7 : 指数15)



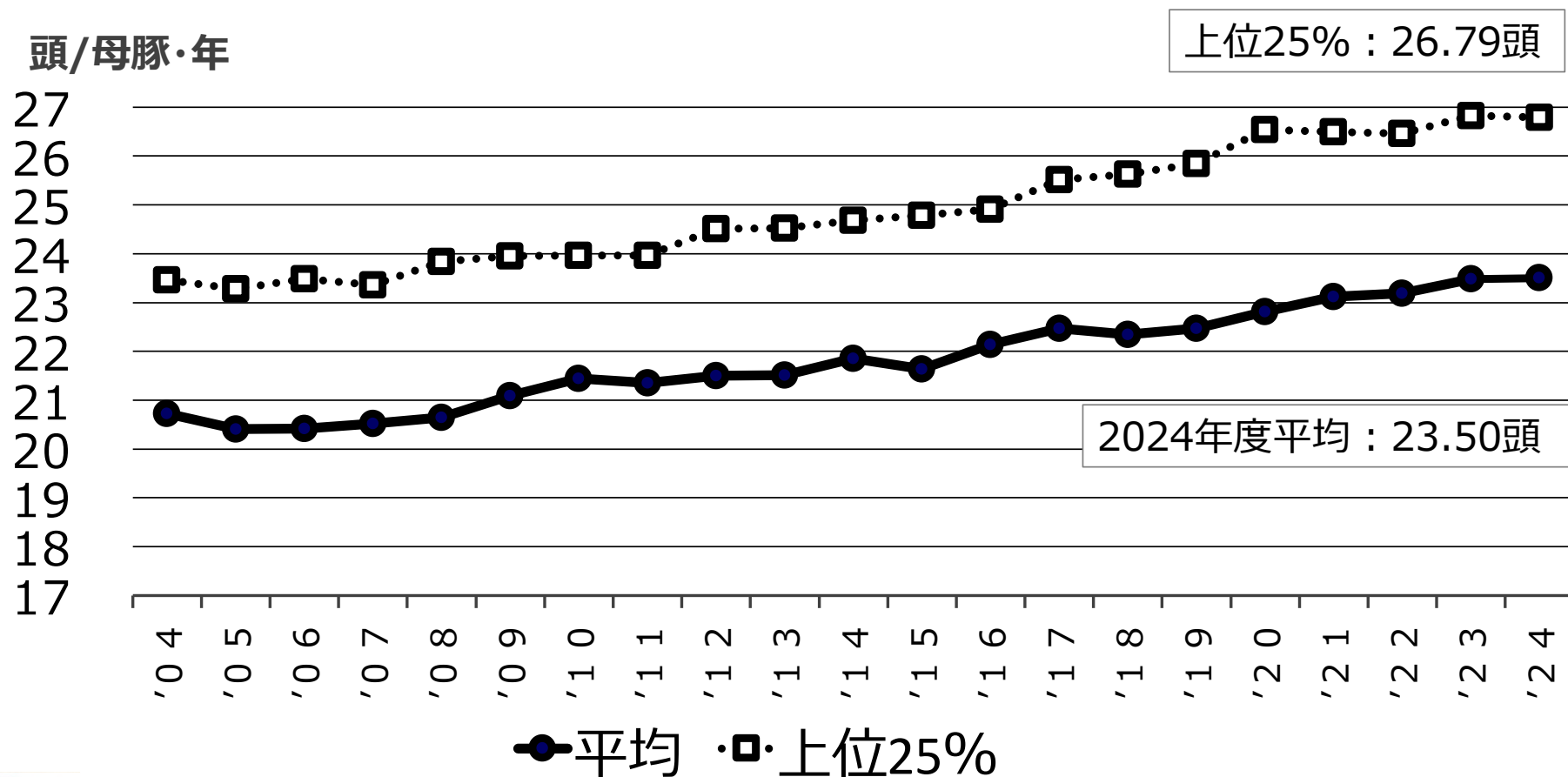
(一貫)

農場飼料要求率 (基準値3.19：指数25)

2.80
2.90
3.00
3.10
3.20
3.30
3.40
3.50
3.60
3.70



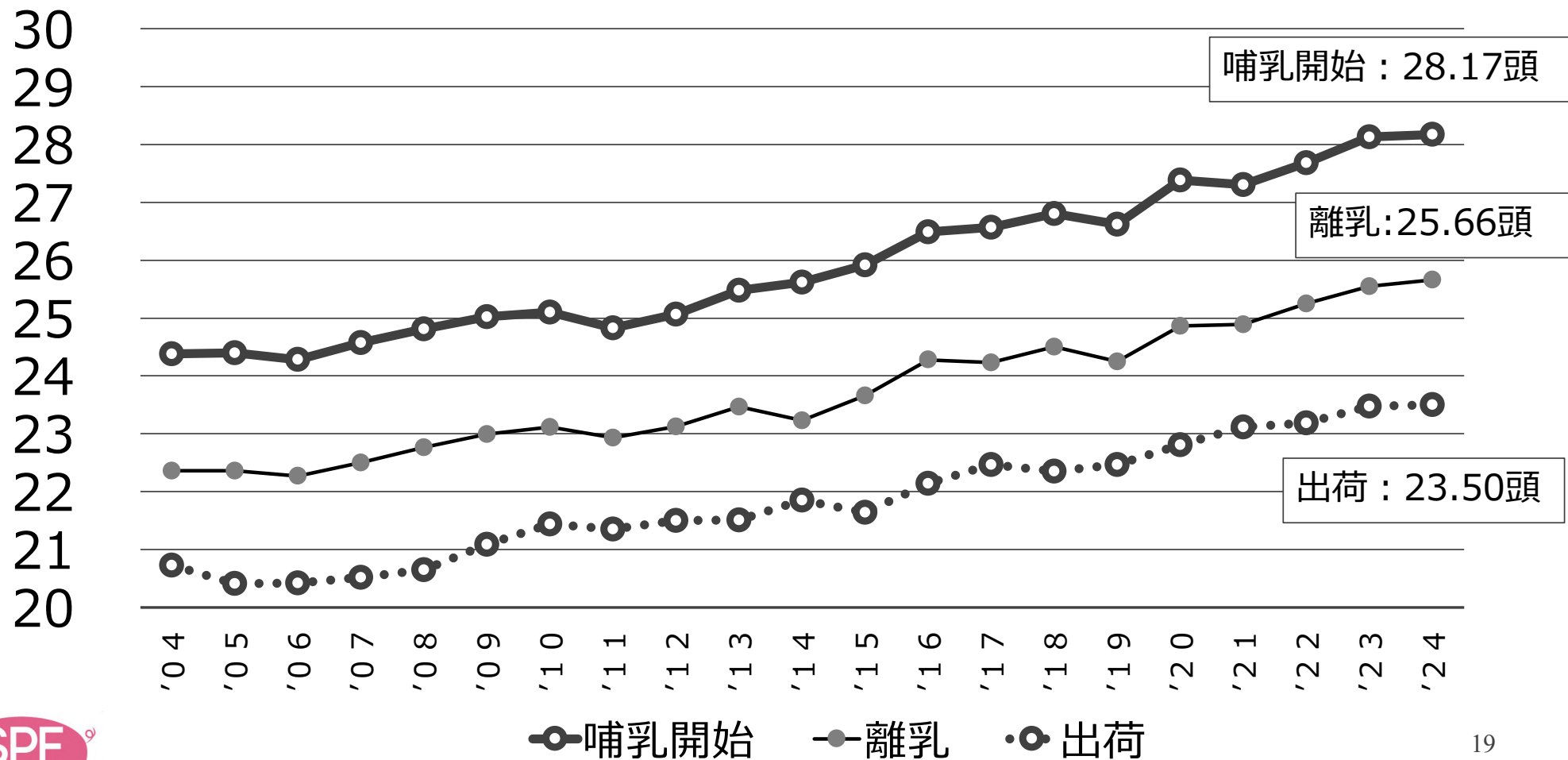
1 母豚あたり年間肉豚出荷頭数（基準値21.35頭：指数40）^{（一貫）}



哺乳開始頭数・離乳頭数・肉豚出荷頭数の推移

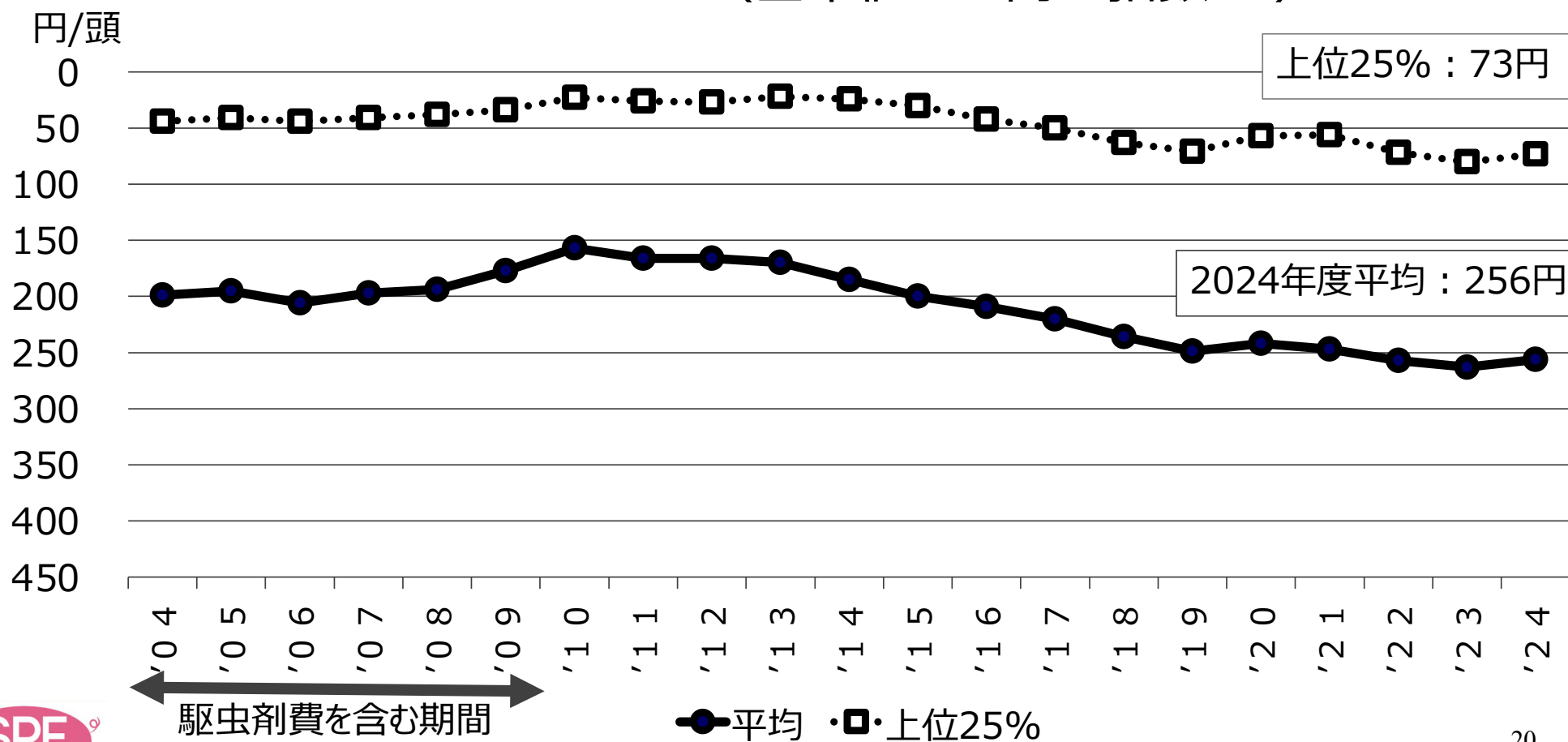
(一貫)

頭/母豚・年



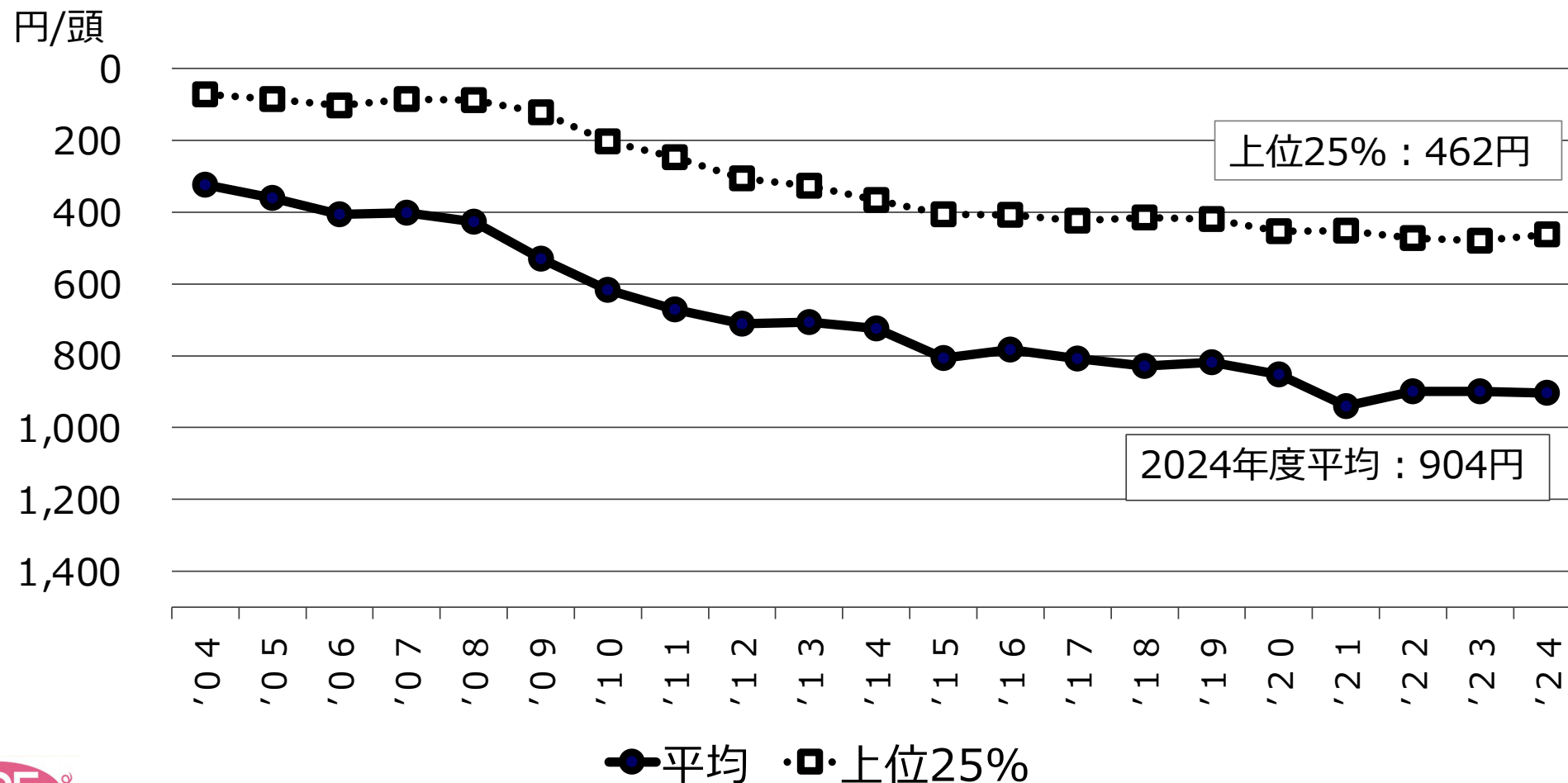
(一貫)

出荷肉豚 1 頭当りA分類薬品費 (抗菌剤) (基準値286円：指数20)



(一貫)

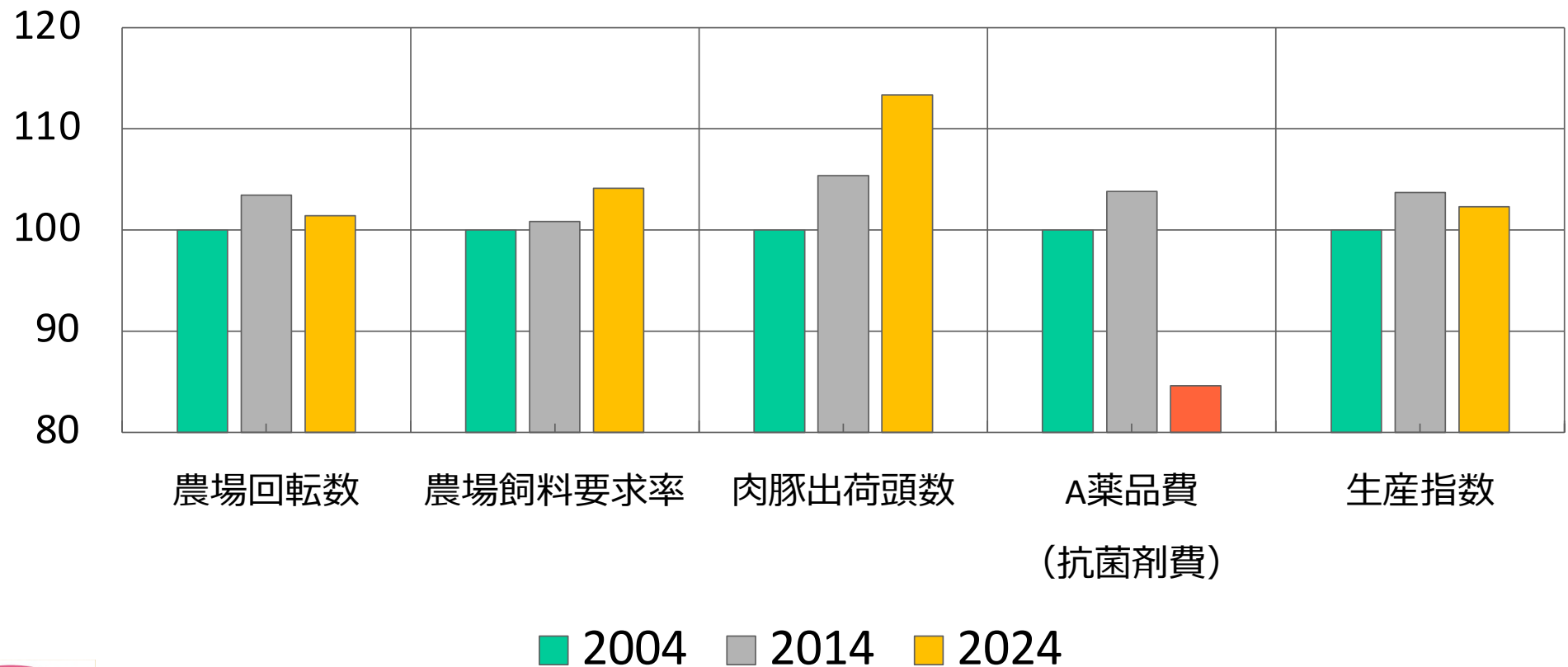
参考 出荷肉豚1頭あたりB分類薬品費（ワクチン）



認定項目の過去成績との比較

(2004年度の各指数を100として)

(一貫)



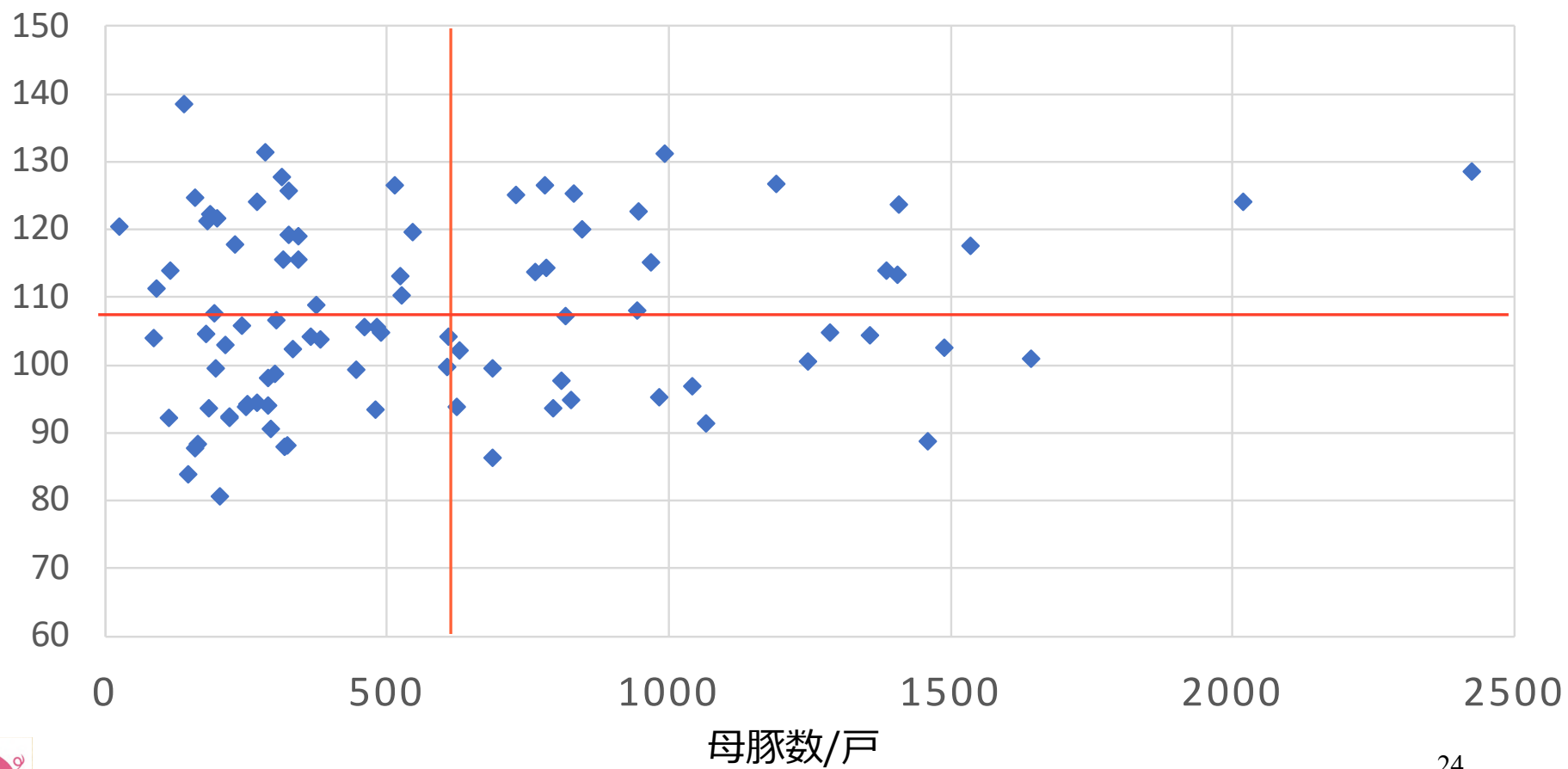
認定データーから見るSPF一貫農場



(一貫)

生産指数

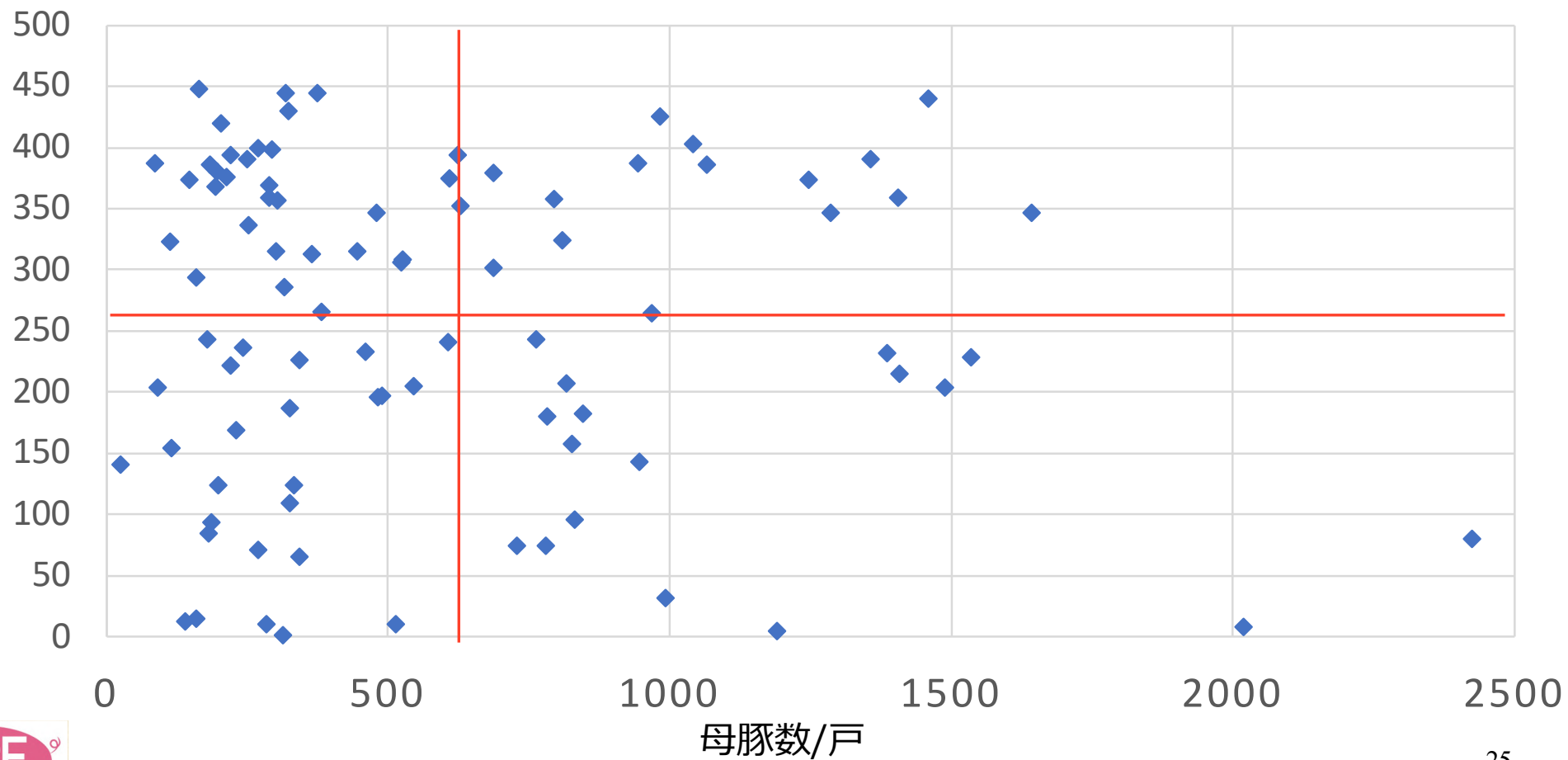
生産指数と母豚規模



抗菌剤費(¥)／出荷肉豚(頭)

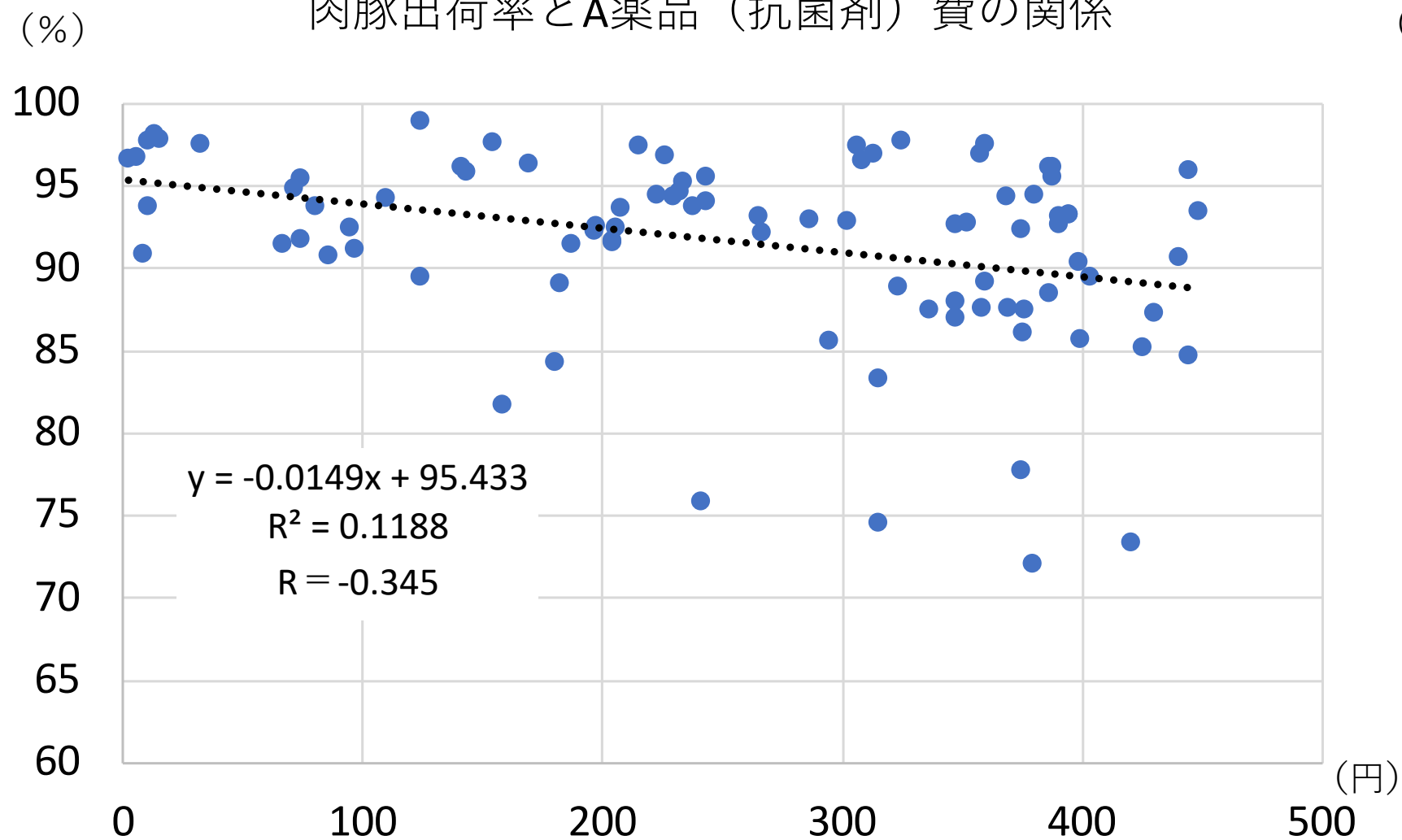
A薬品（抗菌剤）費と母豚規模

(一貫)



肉豚出荷率とA薬品（抗菌剤）費の関係

(一貫)



(一貫)

肉豚出荷率とB薬品（ワクチン）費との関係

(%)

100

95

90

85

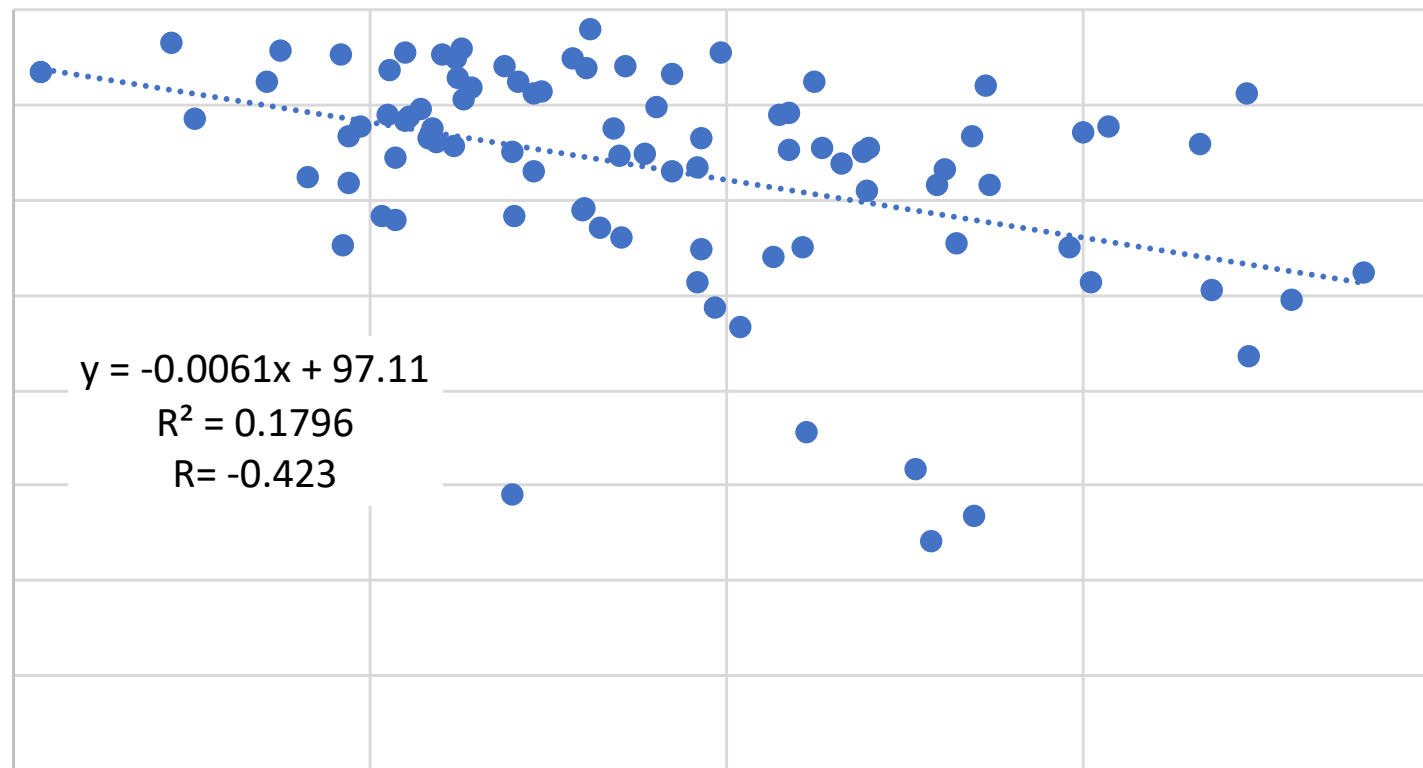
80

75

70

65

60



(円)

0

500

1000

1500

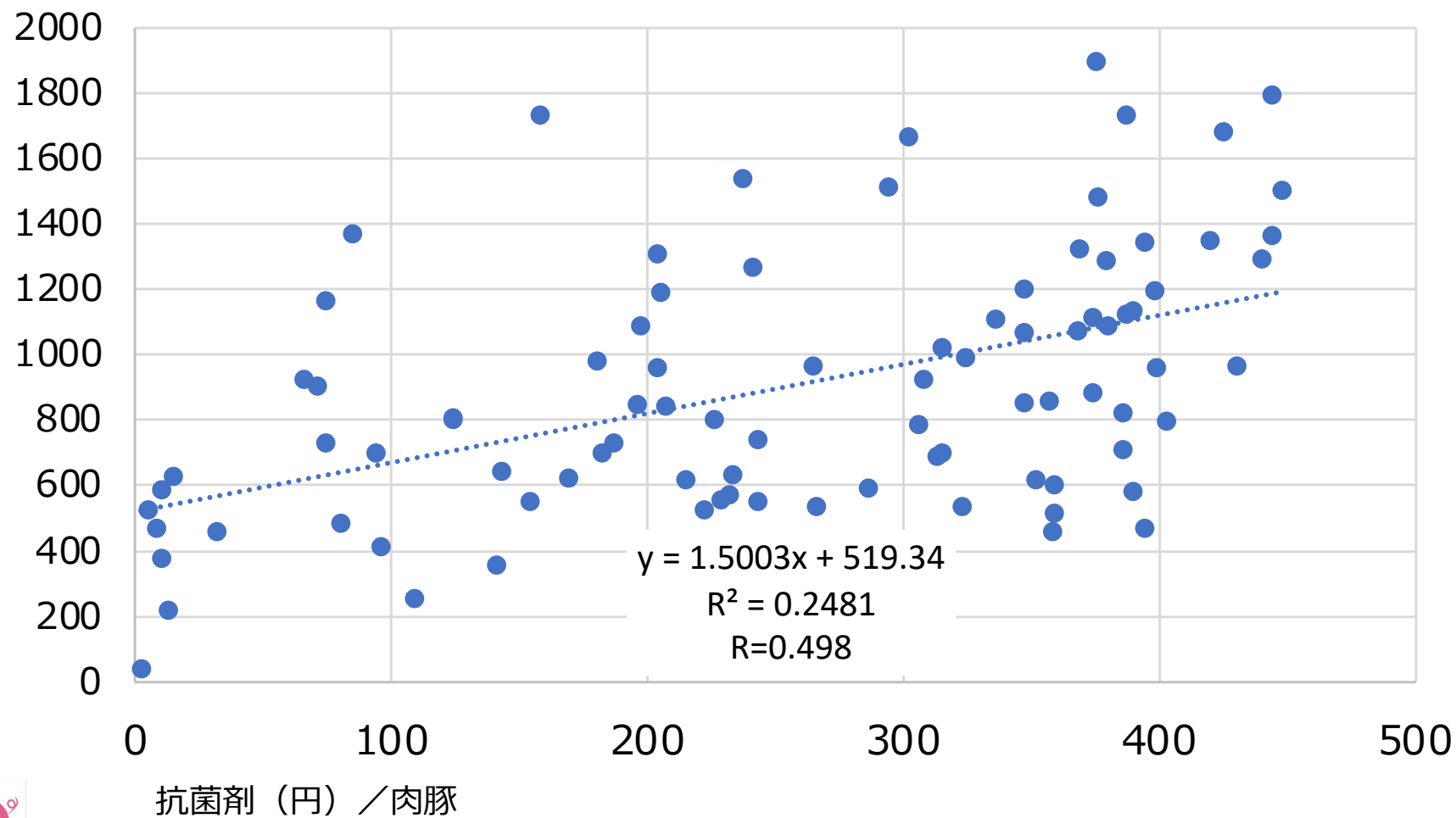
2000

$$y = -0.0061x + 97.11$$
$$R^2 = 0.1796$$
$$R = -0.423$$

ワクチン（円）／肉豚

A薬品（抗菌剤）費とB薬品（ワクチン）費

（一貫）



新たな薬剤耐性（AMR）アクションプランでは、抗菌剤使用量（販売量）の成果指標が設定されました。/
The metric for antimicrobial use in the National Action Plan 2023-2027

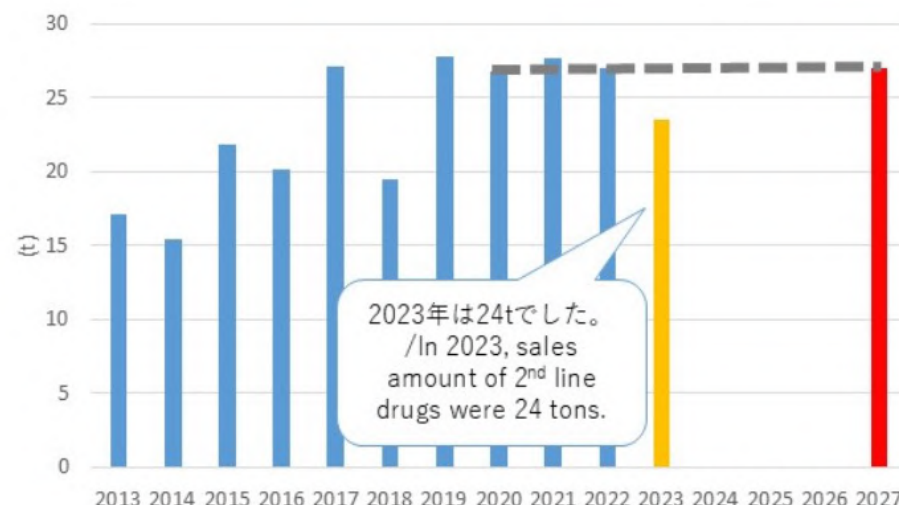
成果指標は「畜産分野における抗菌剤販売量を2020年より15%削減する」です。/ The metric is “15% decrease of antimicrobial sales amount for livestock animals from 2020”.

成果指標は「畜産分野における第二次選択薬の販売量は27t以下に抑える」です。/The metric is to keep the amount of 2nd line drugs sold in the livestock sector to 27 tons or less.

畜産分野における抗菌剤販売量の推移/Changes in antimicrobial sales amount for livestock animals



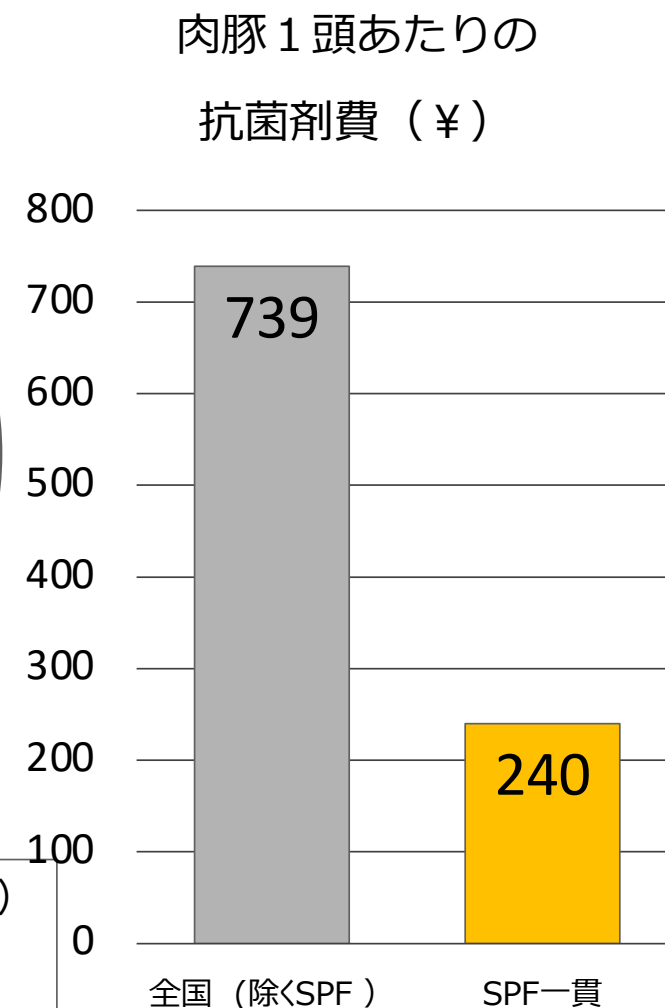
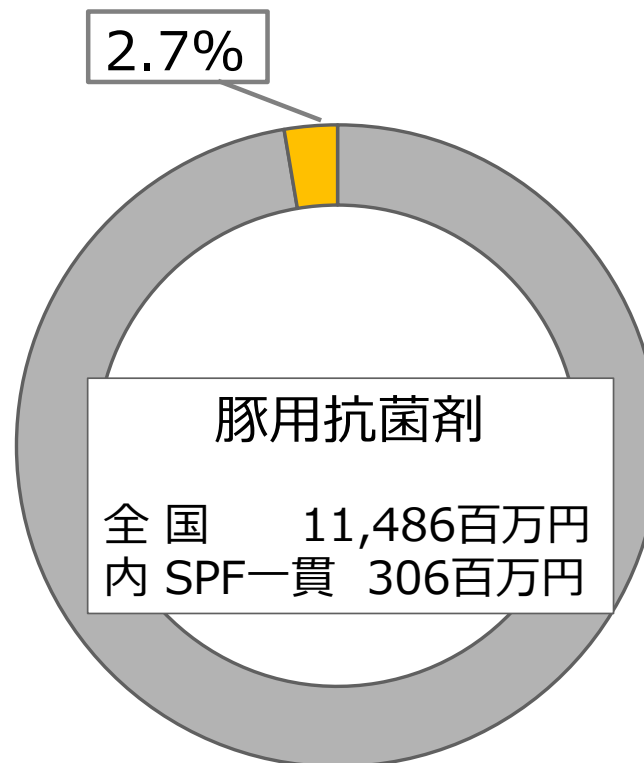
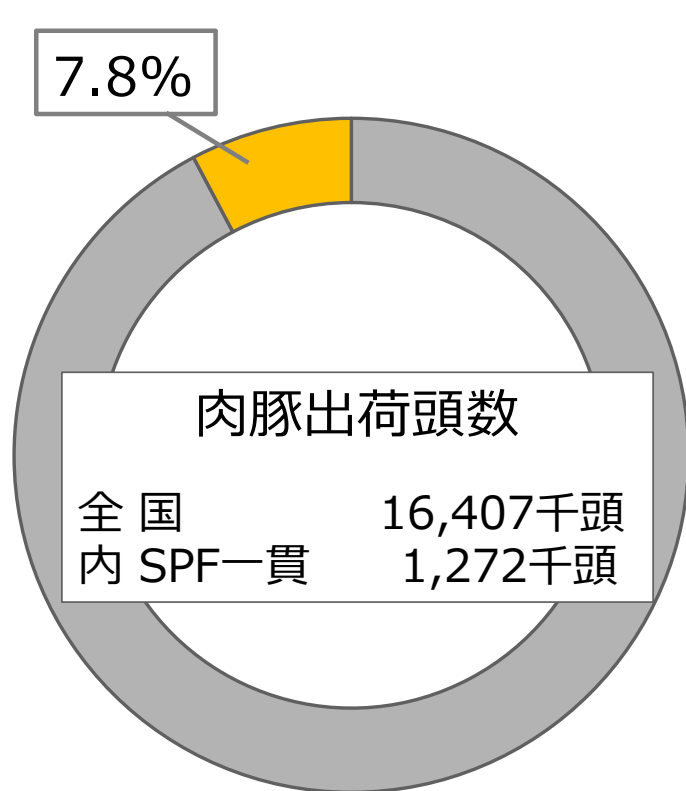
畜産分野における第二次選択薬*販売量推移/
Changes in sales amount of 2nd line drugs*



動物医薬品検査所HPより

https://www.maff.go.jp/nval/yakuzai/yakuzai_p3_6.html

*第二次選択薬：フルオロキノロン、第3世代セファロスポリン、15員環マクロライド、コリスチン/ *2nd line drugs: fluoroquinolones, 3rd generation Cephalosporins, 15-membered ring macrolides, colistin



■ 肉豚出荷頭数（全国 2023年）

■ 同（SPF豚 2024年）

■ 豚用抗菌剤販売高（全国 2023年）

■ 同 購入額（SPF豚 2024年）

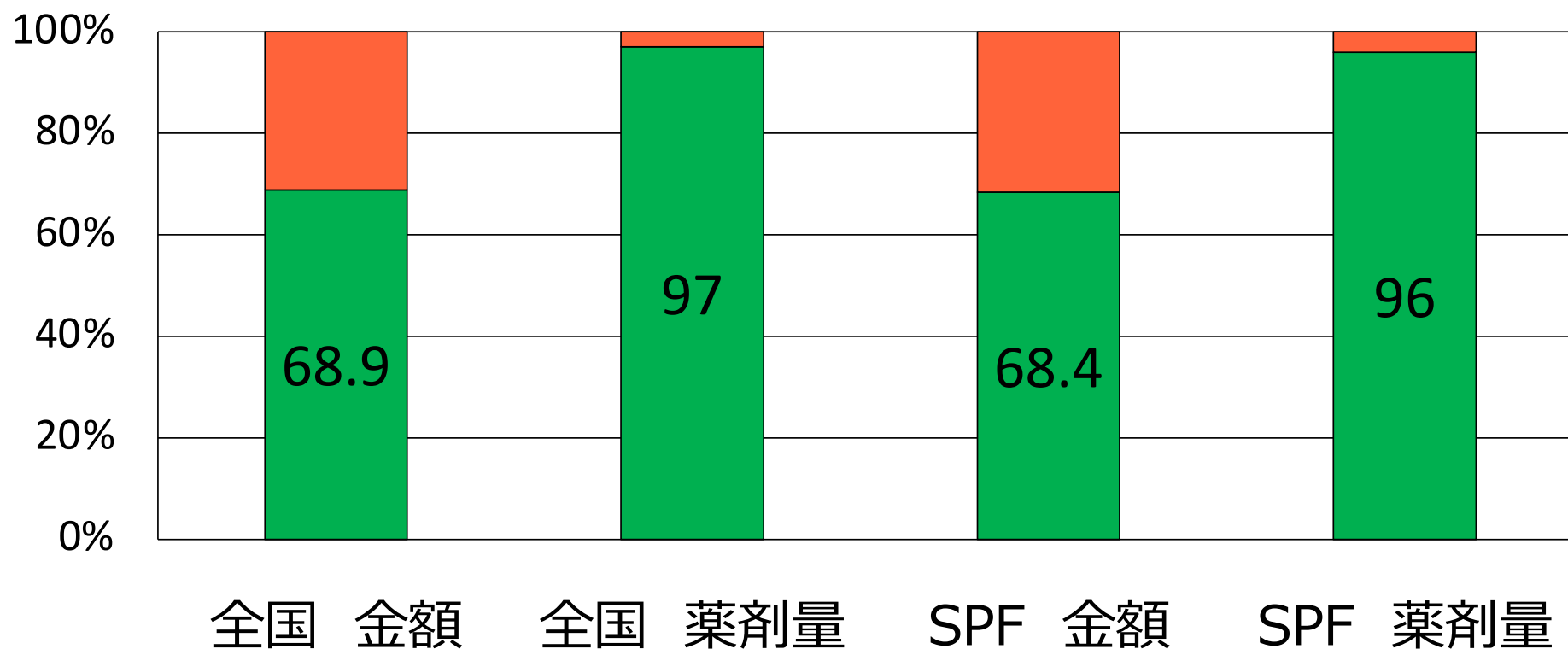


* 全国抗菌剤出典 https://www.maff.go.jp/nval/yakuzai/yakuzai_p3_6.html

* 本集計の抗菌剤には駆虫剤を含まず

* と畜と数出典 畜産物流通統計

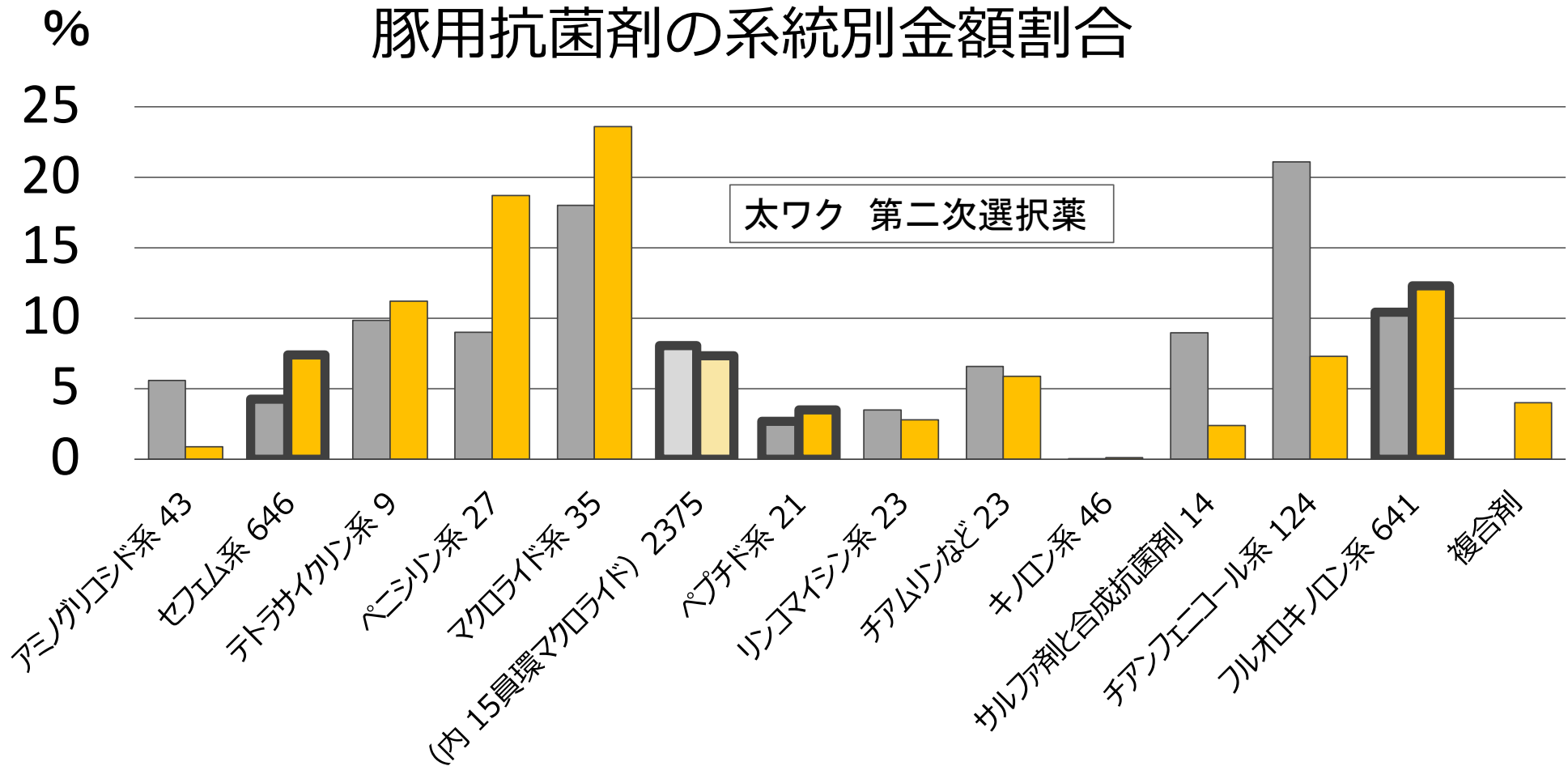
抗菌剤の投与方法の内訳 (全国とSPF一貫)



■ 経口投与薬 ■ 注射薬

SPF は2025年6月-12月のまとめ

豚用抗菌剤の系統別金額割合



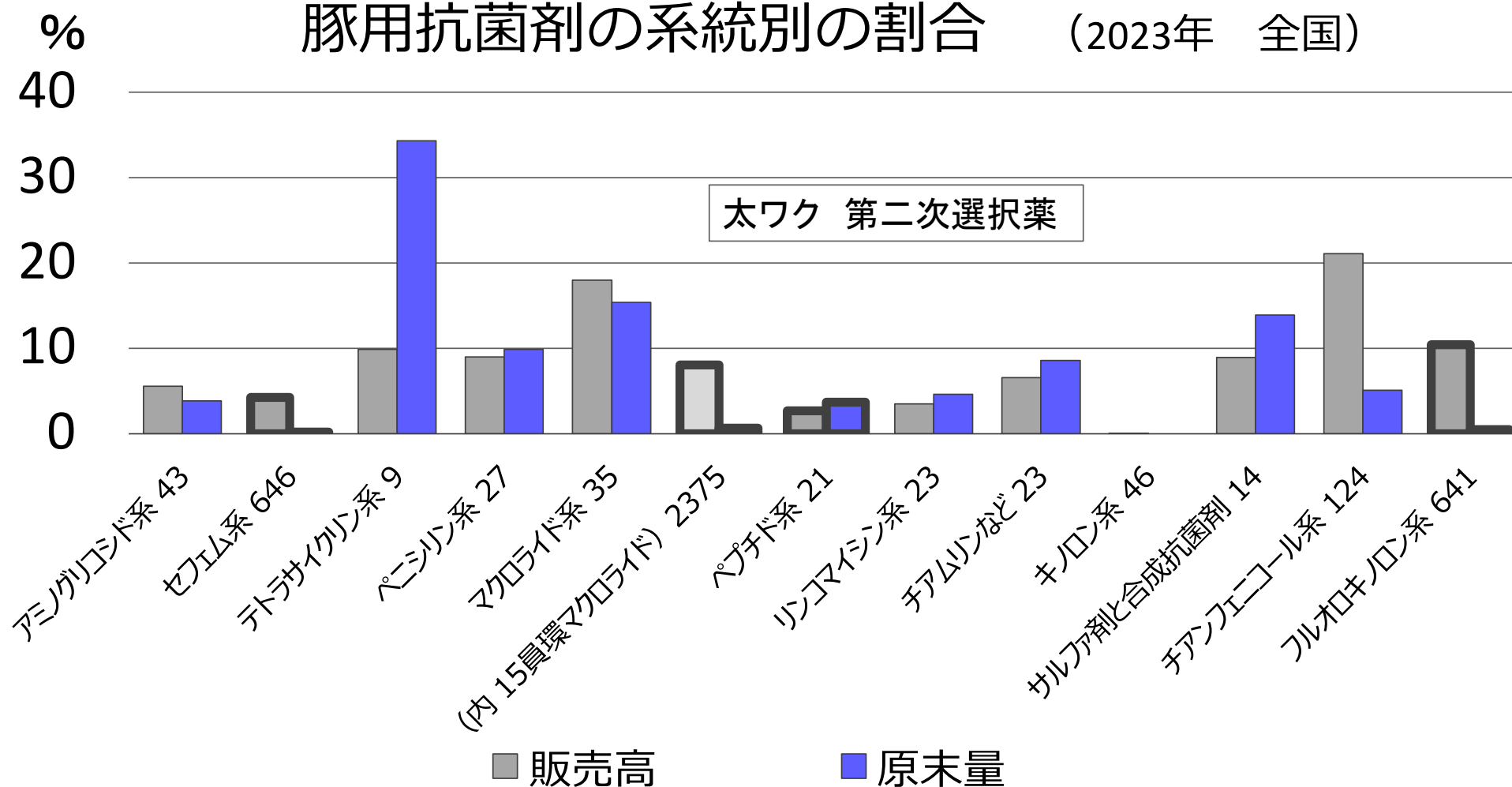
■ 全国販売高 (2023) ■ SPF一貫 購入額 (2024)

* 全国抗菌剤出典 https://www.maff.go.jp/nval/yakuzai/yakuzai_p3_6.html

* 系統名後の数値は原末単価概算 (¥/g)



豚用抗菌剤の系統別の割合 (2023年 全国)

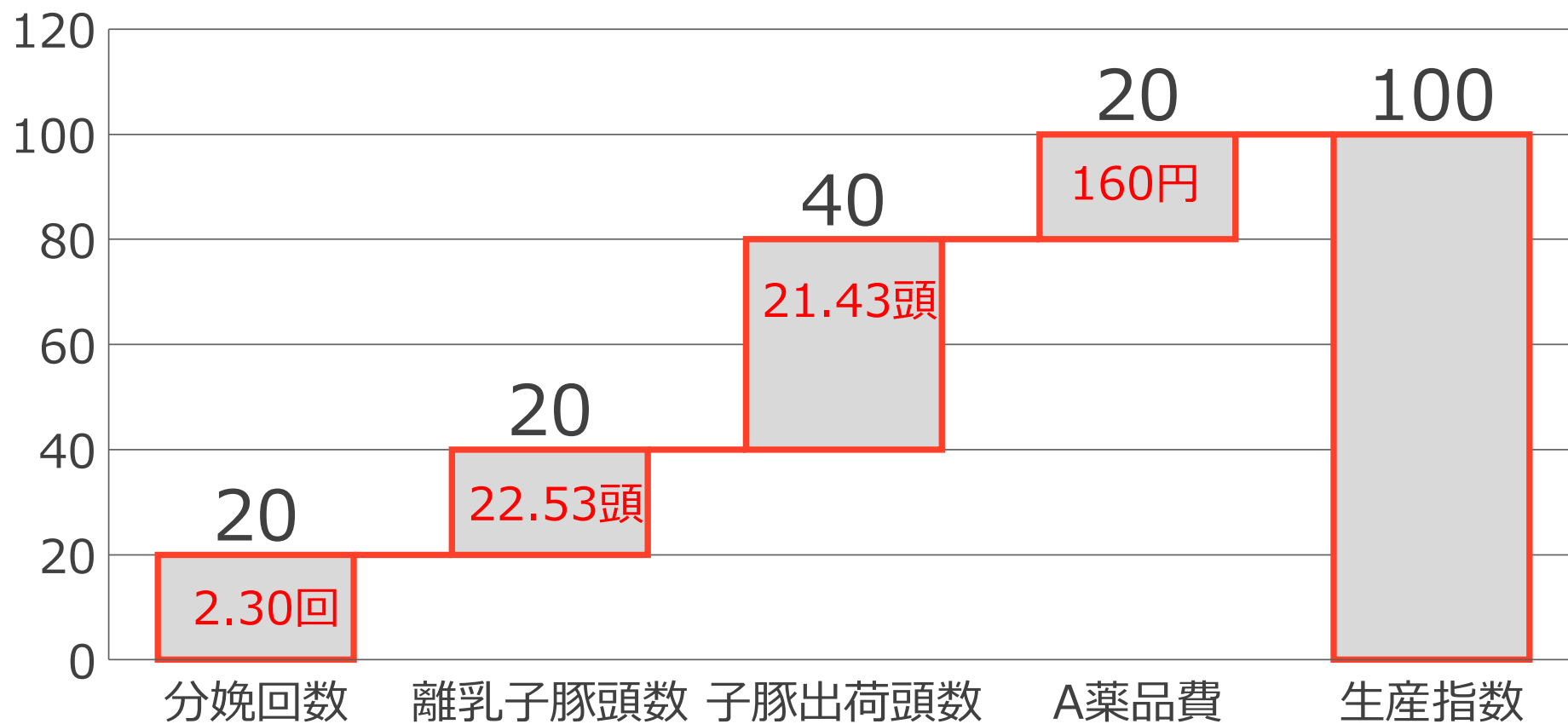


* 全国抗菌剤出典 https://www.maff.go.jp/nval/yakuzai/yakuzai_p3_6.html
 * 系統名後の数値は原末単価概算 (¥/g)

Ⅱ．繁殖専門農場

繁殖-Ⅱ：対象11農場

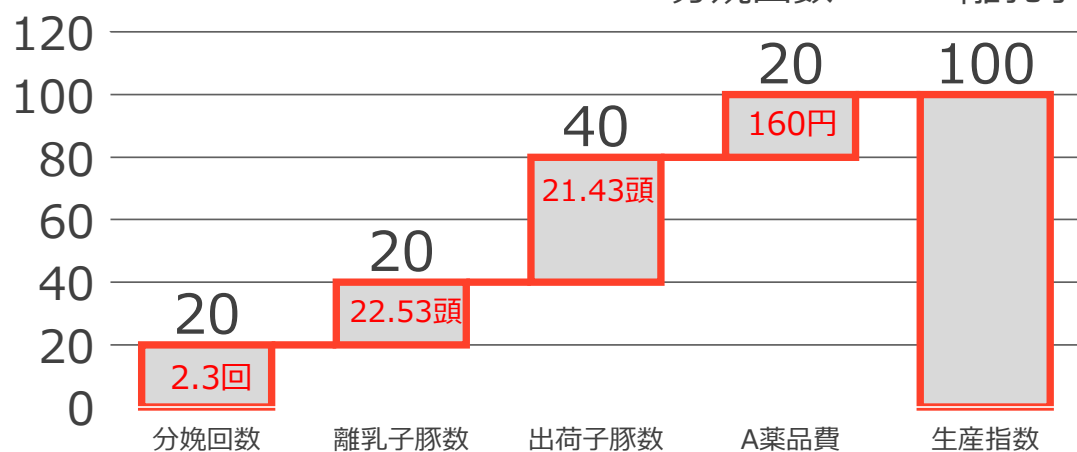
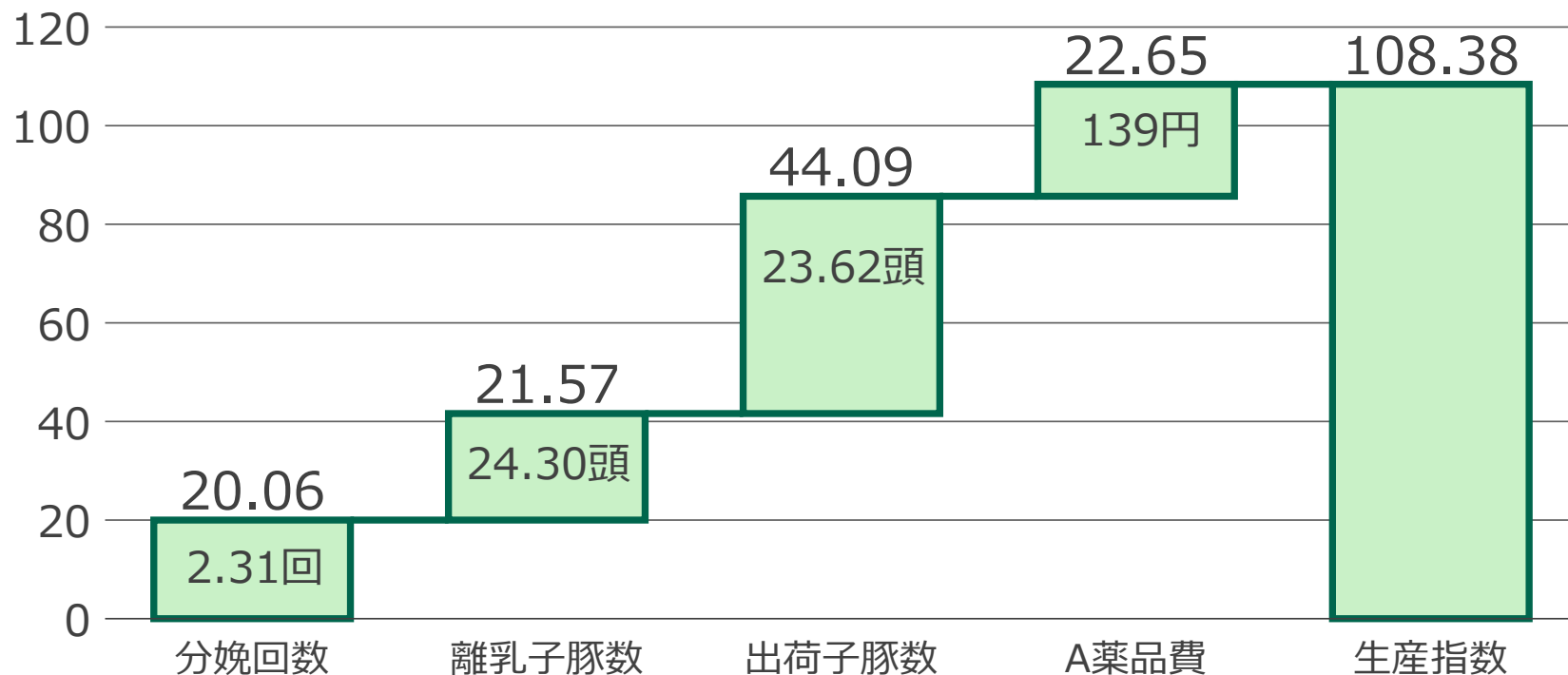
繁殖専門農場の生産成績指数の内訳 (基準値)



* (赤字)基準値



繁殖専門Ⅱ



2024年度の平均値



基準値：2002年度の平均値

生産指数（基準指数100）

（繁殖II）

指数

130

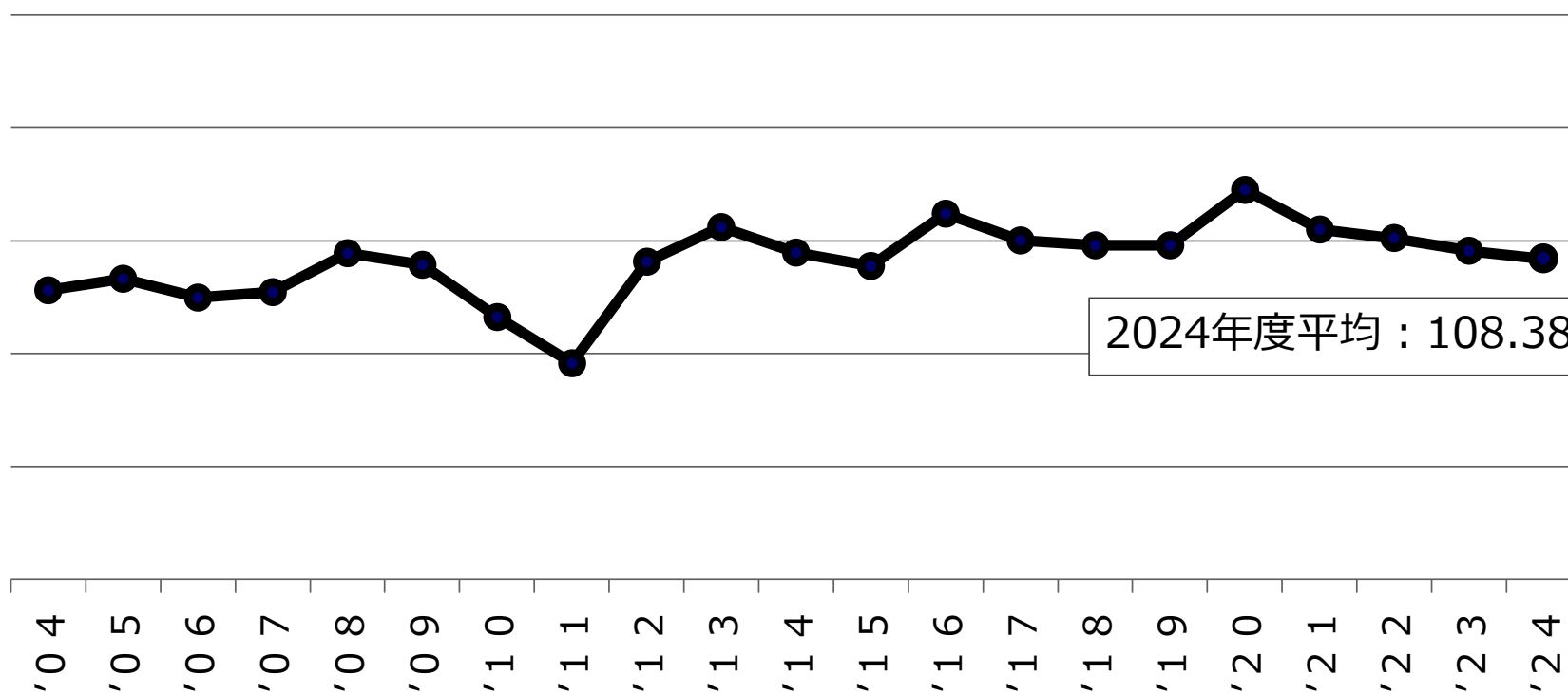
120

110

100

90

80

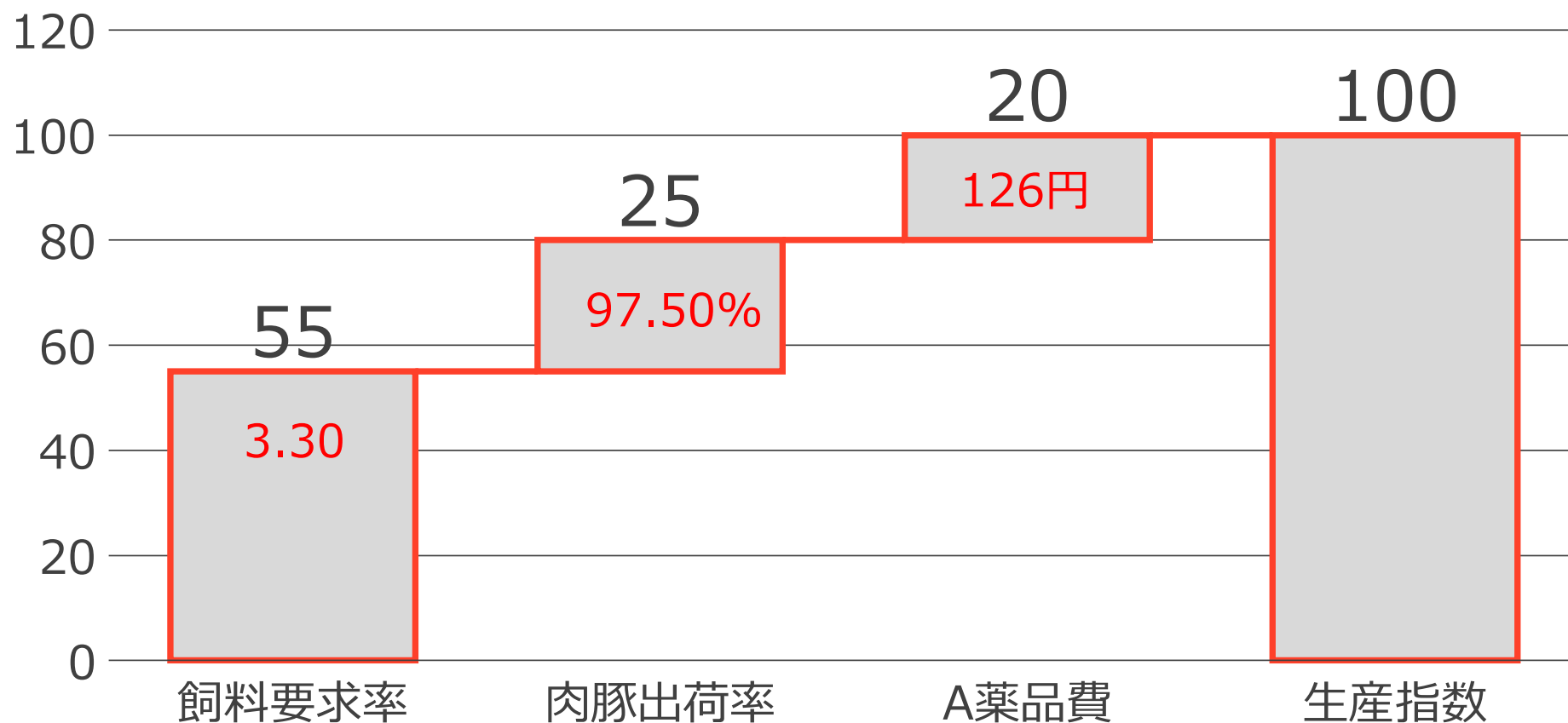


●平均

Ⅲ. 肥育専門農場

肥育-Ⅱ：集計対象15農場

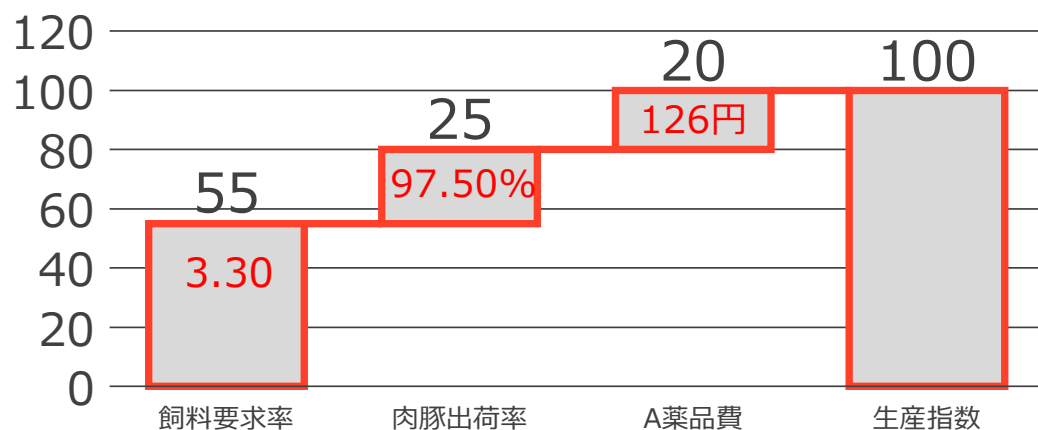
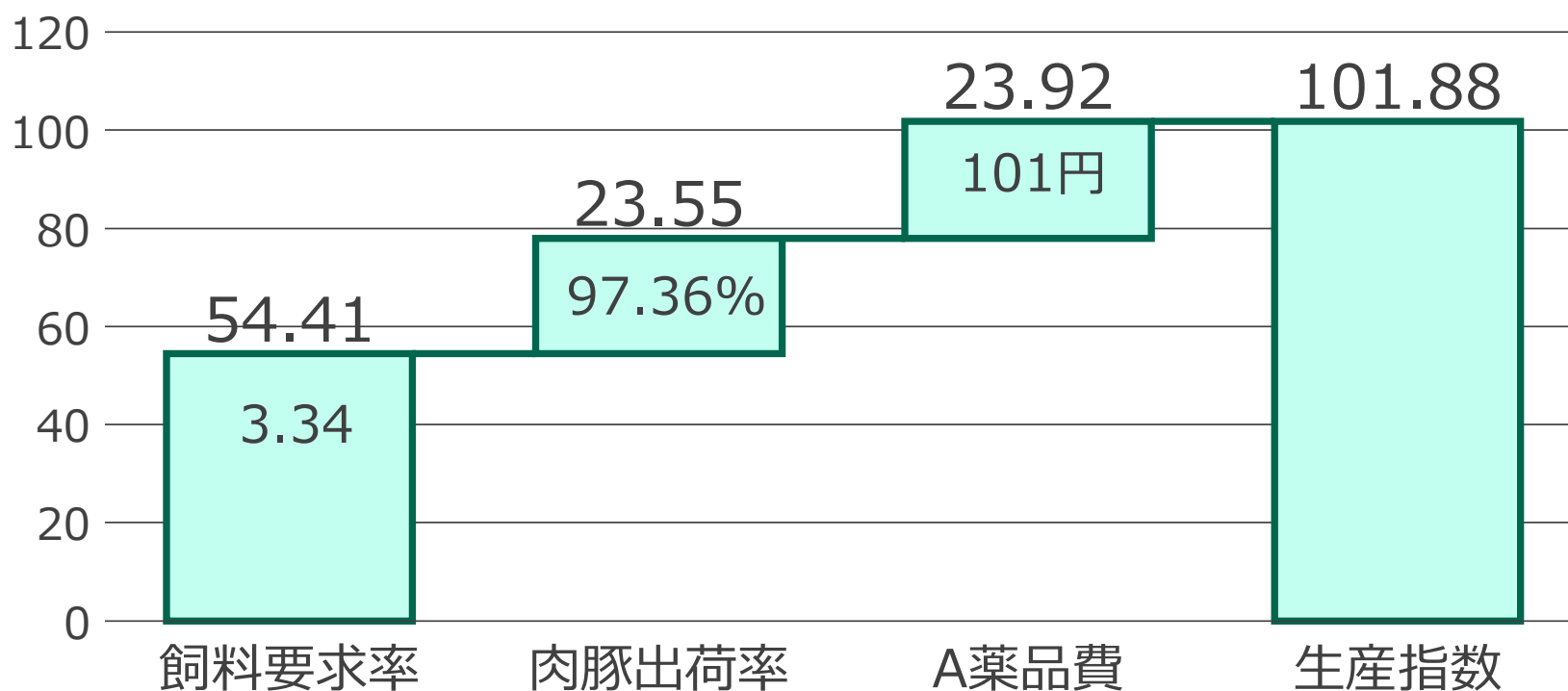
肥育専門農場の生産成績指数の内訳 (基準値)



* (赤字)基準値



肥育専門Ⅱ



2024年度の平均値



基準値：2002年度の平均値

総合生産指数（基準指数100）

（肥育Ⅱ）

指 数

130

120

110

100

90

80

2024年度平均：101.88

'04 '05 '06 '07 '08 '09 '10 '11 '12 '13 '14 '15 '16 '17 '18 '19 '20 '21 '22 '23 '24

●平均

平均で2.36ポイント悪化



まとめ

- ・認定農場は、一貫と肥育農場が2戸ずつ減少した。母豚総数もわずかに減少したが、母豚規模はほぼ変わらなかった。
- ・一貫生産農場では、前年に比べて農場飼料要求率と抗菌剤費が改善され、農場回転率と肉豚出荷頭数は横ばいで、生産指数は0.7ポイント改善された。
過去20年のトレンドでは、最近10年の抗菌剤費用の増加が生産指数の伸びを抑制する理由になっている。それでも肉豚1頭あたりの抗菌剤費用は全国平均の1/3であった。薬剤費とともに薬剤量の抑制にも目を向けたい。
- ・繁殖専門農場は、出荷子豚数は増えたものの抗菌剤費が悪化した。
- ・肥育専門農場は、抗菌剤費は改善されたが農場要求率が悪化し、生産指数を下げる結果となった。

詳細は、日本SPF豚研究会誌 ALL about SWINE 67号に掲載（2025年9月）

